

# NUVIA NUVIA-GLS 日本語マニュアル



概要

ハードウェア  
の設定

BIOS  
セットアップ

BIOS フラッシュ  
ユーティリティ

トラブル  
シューティング

---

このマニュアルの記載事項は予告なしに変更する場合があります。

Arima Computer Corp. makes no warranty of any kind with regard to this material, including, but not limited to, the implied warranties of merchantability and fitness for a particular purpose.

Arima Computer Corp. shall not be liable for errors contained herein or for incidental or consequential damages in connection with the furnishing, performance, or use of this material.

Arima Computer Corp. assumes no responsibility for the use or reliability of its software on equipment that is not furnished by Arima Computer Corp.

This document contains proprietary information that is protected by copyright. All rights are reserved. No part of this publication may be reproduced, transcribed, stored in a retrieval system, translated into any language or computer language, or transmitted in any form whatsoever without the prior written consent of Arima Computer Corp.

Copyright© 2000 by Arima Computer Corp. All rights reserved.  
RIOWORKS™ is the trademark of Arima Computer Corp.  
Other products and companies referred to herein the trademarks or registered trademarks of their respective companies or mark holders.

Printed in Taiwan  
Revision Version: 1.00  
Release Date: December 2001

---

---

# 目次

<b>概要</b> .....	I
パッケージの開封 .....	I
主な特長 .....	II
このマニュアルについて .....	V
サポートについて .....	VI
NUVIAマザーボード (写真) .....	VII
NUVIA マザーボード (レイアウト) .....	VIII
<b>第1章：ハードウェアの設定</b> .....	1-1
ステップ1：ジャンパのセット .....	1-2
ステップ2：メモリの取り付け .....	1-4
ステップ3：CPUの取り付け .....	1-7
ステップ4：ケーブルの接続 .....	1-9
ステップ5：拡張カードの取り付け .....	1-20
ステップ6：電源投入 .....	21
<b>第2章：BIOS セットアップ</b> .....	2-1
セクション1：各項目の説明 .....	2-5
セクション2：Main メニュー .....	2-8
セクション3：Advanced メニュー .....	2-12
3-1: ADVANCD BIOS FEATURES .....	2-12
3-2: ADVANCED CHIPSET FEATURES .....	2-17
3-3: INTEGRATED PERIPHERALS .....	2-21
3-4: POWER MANAGEMENT SETUP .....	2-26
3-5 PNP/ PCI CONFIGURATIONS .....	2-31
セクション4：Defaults メニュー .....	2-33
セクション5：Security メニュー .....	2-35
セクション6：PC Health メニュー .....	2-37
セクション7：Clockメニュー .....	2-39
セクション8：Exit メニュー .....	2-41

---

---

---

<b>第3章：BIOS フラッシュ・ユーティリティ</b> .....	<b>3-1</b>
事前準備.....	3-1
プログラムの実行.....	3-2
コマンドラインパラメータ.....	3-3
保存 / 更新.....	3-4
データの初期化.....	3-5
<b>付録A：トラブルシューティング</b> .....	<b>A-1</b>
<b>付録B</b> .....	<b>A-5</b>
<b>トラブル報告書</b> .....	<b>A-5</b>

---

## 概要

RIOWORKS™ NUVIA/ NUVIA-GLS をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございます。The NUVIA/ NUVIA-GLS は VIA® P4X266A チップセットを搭載した Intel Pentium4 用 ATX マザーボードです。NUVIA/ NUVIA-GLS は Intel® Pentium4 Scket-478 1.5Ghz ~ 2.0Ghz CPU に対応しています。4つの DDR DIMM ソケットがあり、PC2100/PC1600 DDR SDRAM を最大 4 G B まで搭載可能です。NUVIA/ NUVIA-GLS には AGP Pro スロットと 3COM 10/100 Mbps LAN ポートを標準で搭載します。

特筆すべき特徴として NUVIA には USB2.0 コネクタを搭載します。データ転送速度は USB1.1 の 12Mbps を上回る 480Mbps(理論値)となります。また、NUVIA-GLS にはギガビット LAN ポートと 68 ピン U160 SCSI コネクタ、及び 64 ビット/64bit/66Mhz PCI スロットを搭載します。

### ➤ パッケージの開封

箱から全ての付属品を取り出し、以下のものがあることを確認してください。  
破損品・欠品がある場合は販売店にご連絡ください。

- RIOWORKS NUVIA/ NUVIA-GLS マザーボード... 1
- ATA /66 IDE フラットケーブル... 1
- 68 ピン(メス) SCSI ケーブル(オプション) ... 1
- フロッピー用フラットケーブル... 1
- 予備ジャンパキャップ入り袋... 1
- NUVIA/ NUVIA-GLS 英語・日本語マニュアル(オプション)... 1
- ドライバ/ユーティリティ収録 CD - ROM... 1
- オンボード SCSI / LAN 英語・日本語マニュアル(オプション)... 1
- オンボード SCSI ドライバディスク(オプション)

## 主な特長

### CPU

- ソケット 478 に対応しています。
- FSB は 533/400 MHz です。

### チップセット

- NUVIA/ NUVIA-GLS には VIA® の最新チップセットを搭載しています。このチップセットはノースブリッジ(P4X266A) とサウスブリッジ(VT8233C)で構成され、AGP 4X (データ転送率 1066MB/秒)、533/400 MHz FSB の DDR2100 / DDR1600 SDRAM 対応、ATA 100/66/33 IDE 等の機能を提供します。

### システムメモリサポート

- NUVIA/ NUVIA-GLS には 4 つの 184 ピン DDR DIMM ソケットがあります。
- メモリの使用可能サイズは最大 4 GB で、ECC にも対応しています。
- アンバッファ DDR SDRAM では 3GB までサポートします。レジスタード DDR SDRAM であれば 4GB までサポートします。

### 拡張スロット

- 5 つの 32 ビット PCI スロットと 1 つの AGP (Accelerated Graphics Port) Pro スロットを備えています。
- AGP 4x モードの場合、データ転送率は最大 1066MB/秒となります。

### オンボード SCSI コントローラ (NUVIA-GLS のみ)

- Adaptec Ultra160 SCSI コントローラを搭載しました。Adaptec 7892 はハイパフォーマンスの 64bit/66MHz Ultra160 SCSI コントローラです。下位互換があるため Ultra, Ultra Wide, Ultra2 もサポートします。NUVIA-LGS には内部接続用 68 ピン SCSI コネクタを装備しています。“ULTRA3 SCSI” デバイスを使用できます。

- オンボード LAN**
  - 3COM LAN を搭載しています。
  - IEEE 802.3/802.3u 10 Base-T and 100 Base-TX 互換のネットワーク環境に対応しています。
- ギガビット LAN**  
(NUVIA-GLS のみ)
  - Broadcom BCM5701 ギガビット LAN 搭載 (NUVIA-GLS のみ)
- スーパーマルチ I/O**
  - I/O コントローラは 2 つの高速 UART 互換シリアルポートと、EPP、ECP 互換の平行ポートを提供します。また UART2 は COM2 ポートを実用無線通信のための IrDA ポートとして使用できます。
- ウルトラ DMA 100/66/33 バスマスタ IDE**
  - オンボードの PCI バスマスタ IDE コントローラは 2 つの IDE コネクタを提供し、各々のコネクタには IDE 機器を 2 台まで接続できます。
  - ウルトラ DMA モード 5 (ATA-100)、ウルトラ DMA モード 4 (ATA-66)、ウルトラ DMA 33、PIO モード 3 & 4、バスマスタ IDE DMA モード 4、及びエンハンスド IDE 機器に対応しています。
- フロッピードライブ**
  - 3.5 インチ (1.44MB または 2.88MB) フロッピードライブに対応しています。
  - 日本の 3 モード (3.5 インチ / 1.44MB, 1.2MB, 720KB) フロッピーに対応しています。
  - LS-120 スーパードライブ (3.5 インチ / 120 MB) にも対応しています。
  - BIOS は IDE CD-ROM からのブートアップもサポートしています。
- 拡張 ACPI**
  - Windows98/NT4.0/2000/XP の ACPI に完全に対応しており、ソフトオフ、Wake-On-Ring、Wake-On-LAN が可能です。

- Wake-On-Modem**

  - WOM コネクタを持つ内蔵モデムとの組み合わせにより Wake-On-Modem が可能となります。その場合は BIOS セットアップユーティリティで Power Management メニューの Modem Ring Resume 項目を Enabled にしてください。
  
- Wake-On-LAN**

  - WOL コネクタを持つネットワークカードとの組み合わせにより Wake-On-LAN が可能となります。その場合は BIOS セットアップユーティリティで Power Management メニューの Wake Up on LAN 項目を Enabled にしてください。
  
- Desktop Management Interface (DMI)**

  - BIOS レベルで DMI に対応しています。DMI は OS とハードウェア間で通信を行なうための互換性の高い標準プロトコルです。
  
- PC99 規格**

  - NUVIA/ NUVIA-GLS TDVIA は Microsoft の PC99 規格に BIOS レベル及びハードウェアレベルで適合しています。
  
- ハードウェアモニター**

  - ハードウェアモニター (オンボード) と RIOWORKS SmartWatch™ (付属の CD-ROM に収録) ソフトでファン / 温度 / 電圧の監視と異常発見の通知をさせることができます。
  
- VRM 対応**

  - VRM 9.0 仕様に対応しています。
  
- サイズ**

  - 拡張 ATX フォームファクタ 12' x 9.6" (305mm x 244mm)

## ➤ このマニュアルについて

このマニュアルは NUVIA/ NUVIA-GLS でシステムを構築するために必要な情報を説明しています。以下のアイコンのついた説明文は必ずお読みください。



**重要**

このアイコンはシステムのセットアップ及び保守を行なう際に必要となる重要な情報を表します。全てを注意深く読んでください。



**警告**

このアイコンは NUVIA/ NUVIA-GLS でシステムのセットアップ中に起こりうるトラブルを回避するための情報を表します。作業中は常に電源ケーブルを抜いておいてください。



**メモ**

このアイコンはシステムのセットアップに関する注意書きを表します。



**情報**

このアイコンは NUVIA/ NUVIA-GLS を使ったシステムの設定をより簡単にするための便利な情報を表します。

## サポートについて

システムのインストール中またはOSの操作中に問題が発生したときは、まず販売店にご相談ください。そのときにTDVIAと一緒にメモリ、ハードディスク等の周辺機器も持参するとより早く解決できる場合があります。また、RIOWORKSからは以下の方法で情報を提供いたします。

1. RIOWORKS™のWEBサイトをご覧ください。製品やBIOSのアップデート情報が記載されています。

日本語サイト：[www.rioworks.co.jp](http://www.rioworks.co.jp)

英語サイト：[www.rioworks.com](http://www.rioworks.com)

2. RIOWORKS™のWEBサイトの「FAQ」には、ユーザーから多く寄せられる質問に対する答えを用意してあります。

3. Eメールで質問をされる場合は、巻末の「トラブル報告書」の書式項目に従いもれなく記載してください。

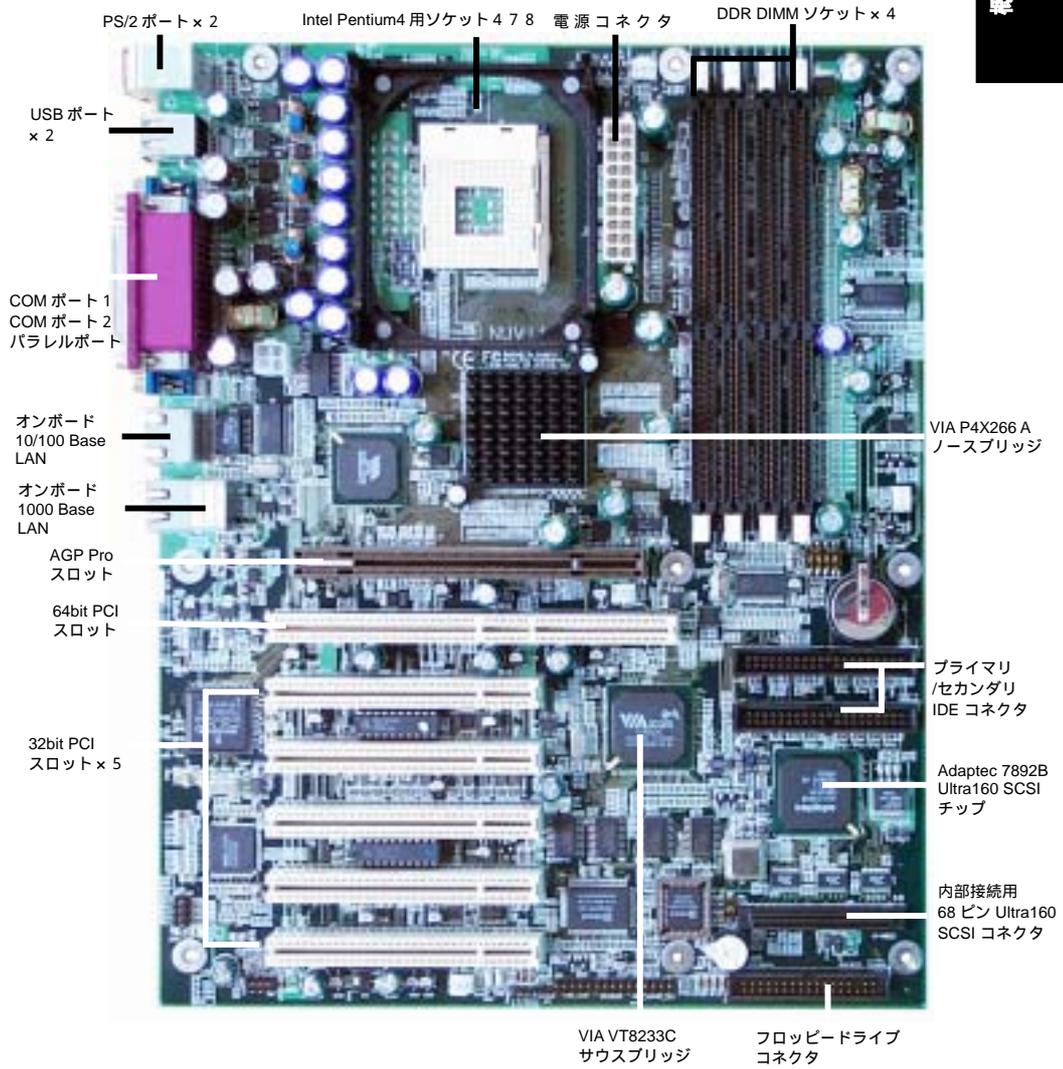
日本語サポートメール宛先：[support@rioworks.co.jp](mailto:support@rioworks.co.jp)

英語サポートメール宛先：[sales@rioworks.com](mailto:sales@rioworks.com)

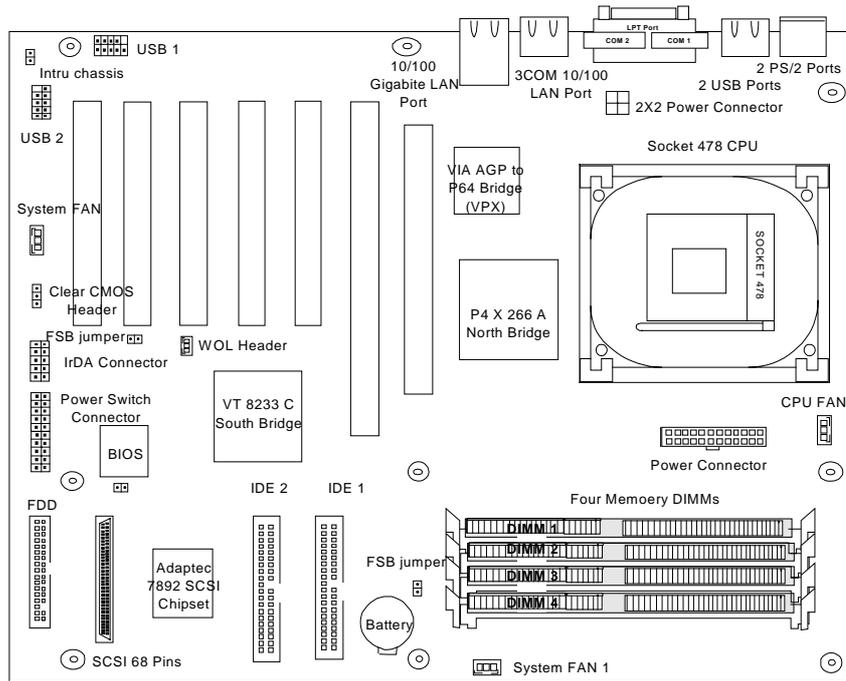
4. Eメールが使えない状況の場合は、FAXでご質問ください。

日本語サポートFAX送信先：03-3526-5007

# NUVIA/ NUVIA-GLS マザーボード(写真)



## NUVIA/ NUVIA-GLS マザーボード(レイアウト)



---

---

このページは空白です。

概要



---

---

## 第1章

# ハードウェアの設定

この章ではCPUやその他ハードウェアの取り付け方法を説明します。

### ➤ 取り付けの手順

取り付けの手順は大きく分けて以下の6項目あります。

- ステップ1：ジャンパのセット
- ステップ2：メモリの取り付け (DDR DIMM ソケット)
- ステップ3：CPUの取り付け
- ステップ4：ケーブルの接続
- ステップ5：拡張カードの取り付け
- ステップ6：電源投入



### 警告

このマザーボードには繊細な電子部品が使用されているため、静電気によって容易に故障します。マニュアルの記載事項を守りマザーボードの取り扱いには細心の注意を払ってください。

マザーボードに触る前に他の金属に触り、体内の静電気を放出してください。

## ステップ1.

# ジャンパのセット

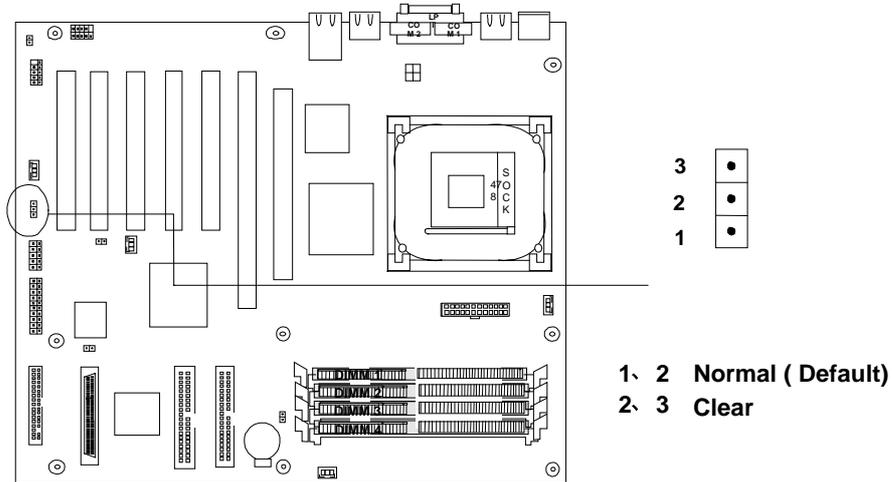
ハードウェア  
の設定

このマザーボードにはジャンパが2種類あります。

項目	コネクタ	ページ
1	リアルタイムクロック (RTC) RAM のクリア	1-2
2	FSB 133Mhz 強制変更	1-3

### 1. リアルタイムクロック (RTC) RAM のクリア

BIOSの設定情報は全てCMOS RAMに保存し、ボタン電池によってその記憶を保持します。通常はRTCデータを保持するためにピン1とピン2にキャップをかぶせたままにしておきます。CMOSの記憶内容を消去する場合のみピン2とピン3にキャップをかぶせショートさせてください。



NUVIA/ NUVIA-GLS Clear CMOS Header

## メモ

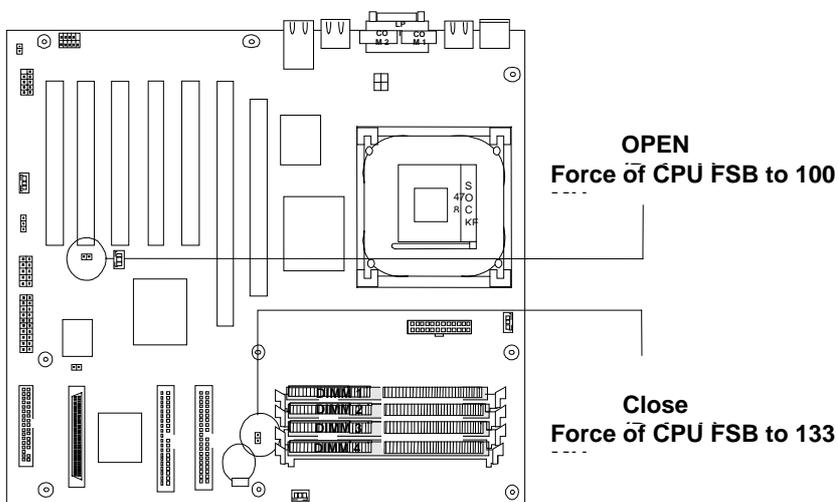
RTCデータをクリアするには以下の手順に従ってください。

- (1) パソコン本体の電源を切ってください。
- (2) ピン2とピン3にキャップをかぶせ5秒以上ショートさせてください。
- (3) ジャンパキャップをピン1とピン2の位置に戻してください。
- (4) パソコンの電源を入れてください。
- (5) システムの起動中に<Delete>キーを押し BIOS 設定メニューを開いてください。BIOS 設定画面が現れたら<Load Optimal Defaults> または<Load Failsafe Defaults>のどちらかを選択し<Exit>で保存します。

ハードウェア  
の設定

## 2. FSB 133Mhz 強制変更(2-pin jumper)

このジャンパでCPUのFSBを強制的に133Mhzにできます。このジャンパはオーバークロックのためのものです。機器にダメージを与える可能性があるためIntel®とRiOWORKSはオーバークロックを推奨しません。



NUVIA/ NUVIA-GLS Front Side Bus Header

## メモリの取り付け

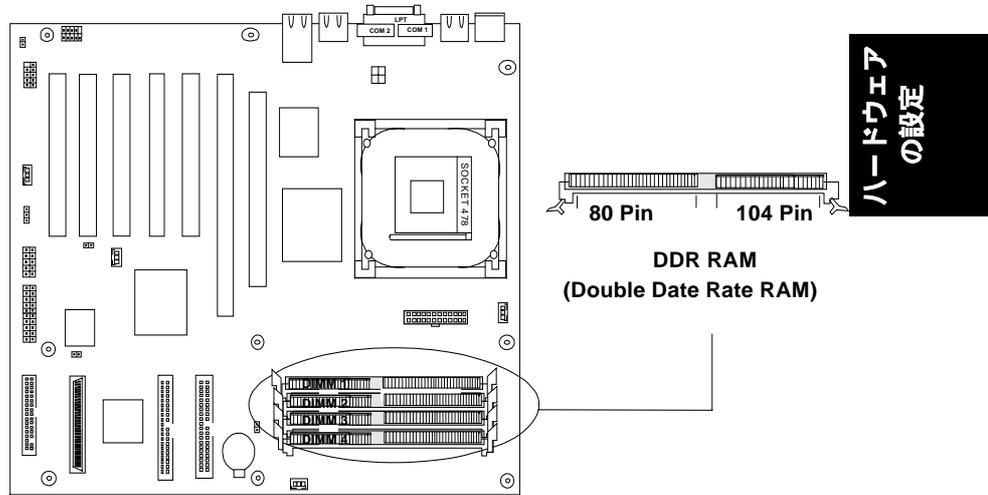
NUVIA/ NUVIA-GLS は 184 ピンの DDR(Double Data Rate) DIMM(Dual Inline Memory Modules)を使用します。4 本ある DIMM ソケットは 2.5 ボルトの DDR2100/DDR1600 に対応しており、アンバッファまたはレジスタード DDR SDRAM を装着できます。搭載可能なメモリサイズはアンバッファ DDR SDRAM の場合は最大 3GB、レジスタード DDR SDRAM の場合は最大 4GB までサポートします。

### 重要

- DDR2100/DDR1600 DIMM だけを使用してください。他のメモリでは動作しません。
- チップセットが提供する ECC( Error Checking and Correction/エラー補正)機能をご利用になるには、片面に9つのチップがついたモジュールをお使いください。そして BIOS ユーティリティの“Advanced Chipset Setup”メニューにある “ Memory Parity/ECC Check ” 項目を Enabled にしてください。
- アンバッファードDDR SDRAM とレジスタード DDR SDRAM を混用することはできません。
- メモリモジュールに搭載している DRAM は 1M/ 2M/ 4M/ 8M/ 16M いずれのチップでも問題ありません。
- レジスタード DDR モジュールの場合は 8 バンクまでサポートするため最大 4GB まで使用可能です。
- アンバッファ DDR モジュールの場合は 6 バンクまでサポートするため最大 3GB まで使用可能です。

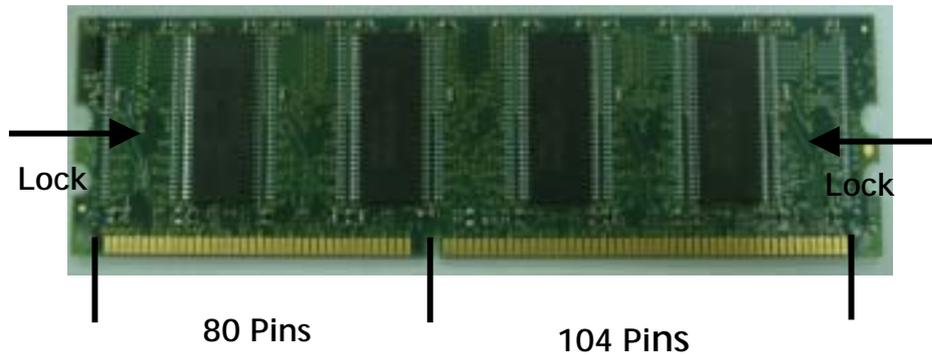
## ➤ メモリの取り付け手順

1. メモリを取り付けるスロットは○で囲んだ部分です。

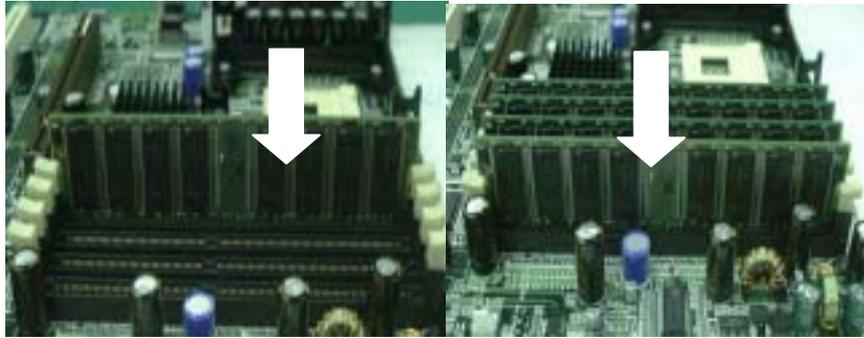


### NUVIA Memory Installation

2. 下図をご覧ください。DIMM モジュールの下部には切り欠きがあり、80ピンと104ピンに分かれています。



3. DIMM モジュールの切り欠きの位置とスロットの位置を合わせ、両手を使ってまっすぐに差し込んでください。正しい位置に収まるとスロットのタブが DIMM モジュールの両脇にある切り欠きに入り、しっかりとロックします。向きを間違えて取付けると発火する恐れがあるので注意してください。



4. 2 枚目以降の取り付けも同様の手順で行なってください。

---

---

### ステップ3

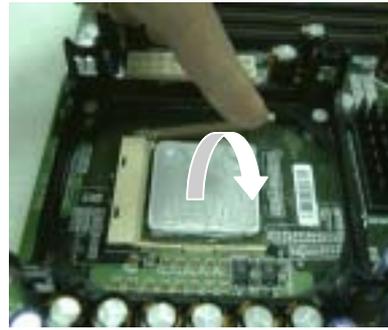
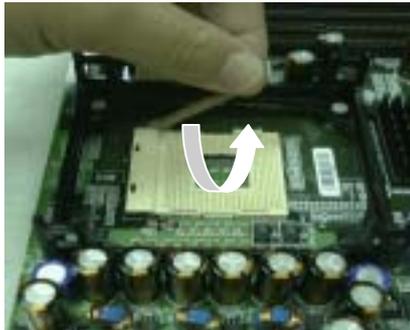
## CPUの取り付け

NUVIA/ NUVIA-GLS は Intel® Pentium4 Socket-478 1.5Ghz ~ 2.0Ghz CPUに対応しています。

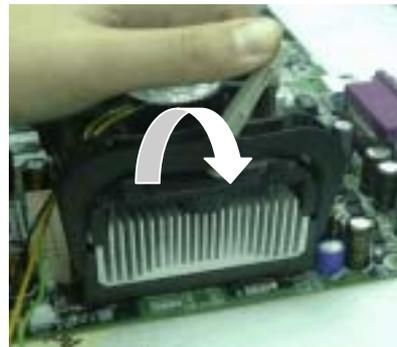
ハードウェア  
の設定

### ➤ CPUの取り付け手順

1. ソケットレバーを垂直になるまで持ち上げてPentium4をピンの位置に注意しながら取り付けたらレバーを元の位置に戻します。

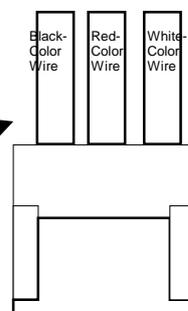
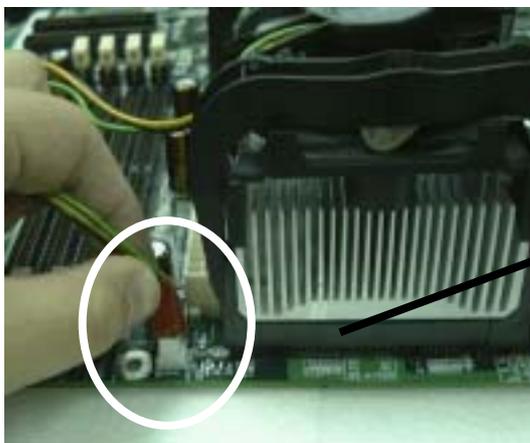


2. CPU ヒートシンクを取り付けしっかりとロックしてください。



- 
- 
3. CPUクーラーの3線ケーブルはCPUFANと書かれたコネクタに接続してください。

ハードウェア  
の設定

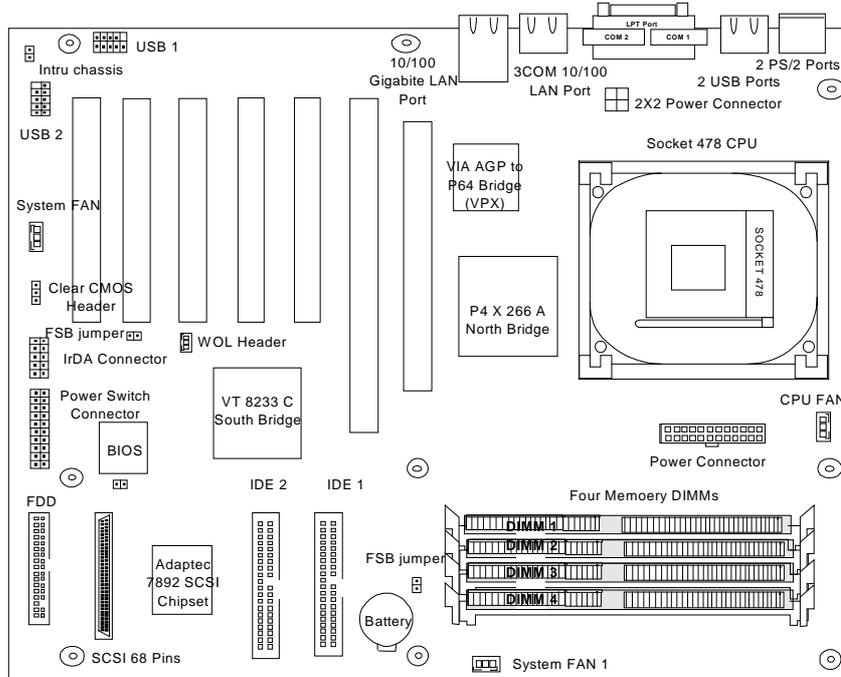


#### ステップ4.

## ケーブルの接続

このステップでは NUVIA/ NUVIA-GLS の各種コネクタについて説明します。  
レイアウト図を見ながらコネクタの位置を確認してください。

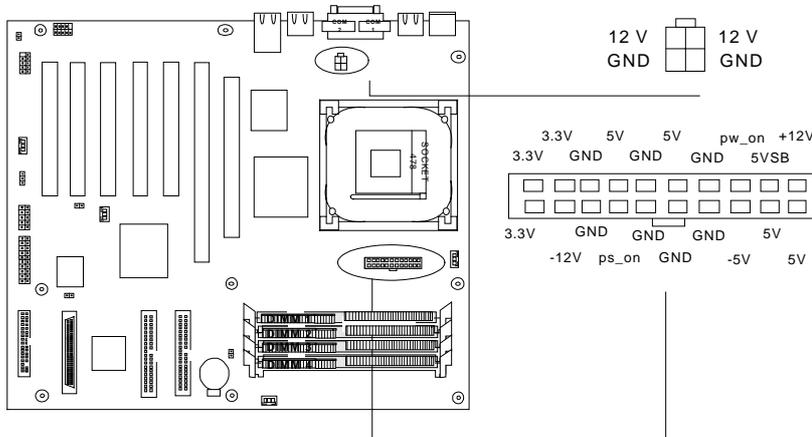
ハードウェア  
の設定



項目	コネクタ	ページ
1	ATX 電源	1-11
2	フロッピーディスクドライブコネクタ	1-11
3	プライマリ/セカンダリ IDE コネクタ	1-12
4	リセットスイッチ	1-13
5	SCSI ハードディスク LED	1-13
6	ハードディスク LED	1-14
7	サスペンド LED	1-14
8	スピーカ	1-14
9	ATX パワースイッチ/ソフトパワースイッチ	1-14
10	システムパワーLED	1-14
11	CPU ファン・予備ファンコネクタ	1-14
12	IrDA 準拠赤外線モジュールコネクタ	1-15
13	Wake-On-LAN ヘッダ	1-16
14	PS/2 マウスコネクタ	1-17
15	PS/2 キーボードコネクタ	1-17
16	USB (Universal Serial Bus)ポート/ヘッダ	1-17
17	パラレルプリンタコネクタ	1-17
18	オンボード LAN コネクタ	1-18
19	シリアルポート COM1 / COM2 コネクタ	1-18
20	オンボード SCSI コネクタ(NUVIA-GLS のみ)	1-18

### 1. ATX 電源 (20-pin ATX power connectors)

ここに電源ユニットを接続します。コネクタの向きが違くと差し込めないようになっているので注意してください。Wake on LAN を利用する場合、5VSB(5-volt Stand-by lead / 下図参照)に少なくとも 720mA の供給が必要です。



ハードウェア  
の設定

NUVIA ATX Power Connector

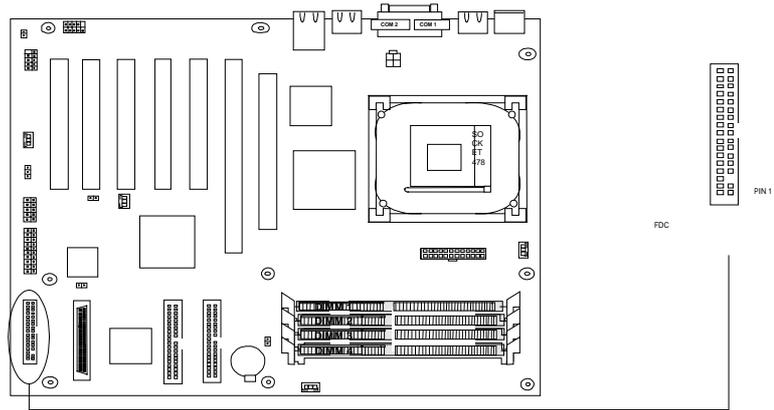


### 重要

- ❑ RIOWORKS では 300W 以上 ATX 2.03 仕様の電源ユニットを使用することを推奨いたします。

### 2. フロッピーディスクドライブコネクタ (34-pin FLOPPY)

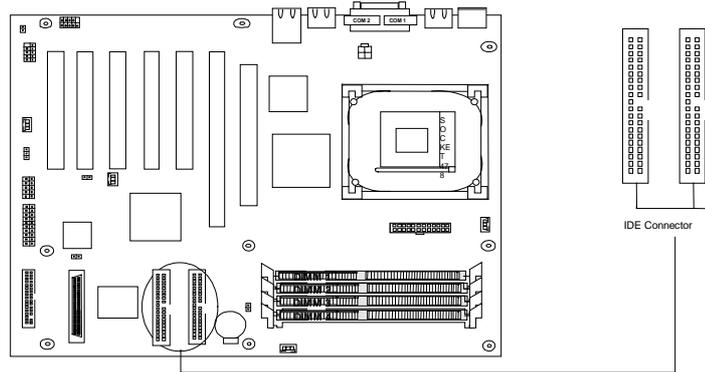
このコネクタにはフロッピーディスクドライブ用のフラットケーブルを接続します。ケーブルとコネクタのピン 1 の位置を合わせて接続してください。多くの場合、ケーブルのピン 1 側には赤い色がついています。



NUVIA/NUVIA-GLS Floppy Connector

### 3. プライマリ/セカンダリ IDE コネクタ (Two 40-pin IDE)

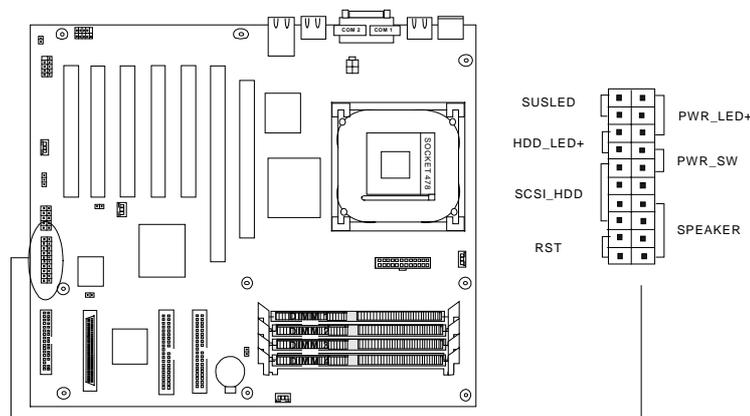
80 線 40 ピンの IDE フラットケーブルに対応しています。ケーブルには 3 つのプラグがついています。2 つのプラグがついた側をドライブに接続し、1 つのプラグがついている側をマザーボード上のコネクタに接続してください。1 本のケーブルに 2 台のドライブを接続する場合、先端のプラグに接続するドライブのジャンパをマスタにセットし、中央寄りのプラグに接続するドライブのジャンパはスレーブにセットしてください。ジャンパの設定についてはドライブの説明書に従ってください。



NUVIA/NUVIA-GLS IDE Connector

## 重要

- ❑ フラットケーブルの赤い線がピン1側になるよう接続してください。フラットケーブルは全長46cm以下、マスタプラグとスレーブプラグの間隔が15cm以内のものを使用してください。
- ❑ ATA100/66の性能を引き出すためには80線のATA100/66用ケーブルを使用してください。40線のケーブルはATA33用のものです。



NUVIA Front Panel Connector

図 4-1

項目 4. ~ 10. は上図 4-1 を参照してください。

#### 4. リセットスイッチ (2-pin RST)

この2つのピンにはパソコンケースのリセットスイッチを接続します。電源のオン/オフを行わず電氣的負荷が少ないため、通常の再起動には電源ボタンではなくリセットボタンを使ってください。

#### 5. SCSI ハードディスク LED (4-pin SCSI\_HD)

このコネクタは SCSI カードの LED 端子に接続します。SCSI 機器が読み書きを行なうとフロントパネルの LED が点灯します。

**6. ハードディスク LED (2-pin HDD\_LED)**

このコネクタには PC ケースにあるハードディスク用 LED 端子を接続します。プライマリ/セカンダリを問わずハードディスクが読み書きを行なうと PC ケース前面の LED が点灯します。

**7. サスペンド LED (2-pin SUS\_LED)**

システムが省電力モードに入ったとき、サスペンド状態であることが分かるように LED が点灯します。

**8. スピーカ(4-pin SPEAKER)**

PC ケースについているスピーカからピープ音を鳴らす場合は PC ケースに付いているスピーカケーブルを接続してください。オンボードのブザーを鳴らす場合はピン 1 とピン 2 にジャンパキャップを被せてください。

**9. ATX パワースイッチ/ソフトパワースイッチ(2-pin PWR\_SW)**

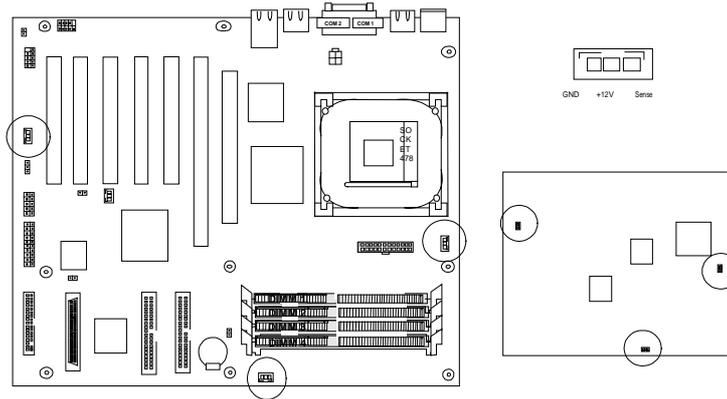
PC ケースについている起動スイッチ端子を接続します。システム稼動中に起動スイッチを押すとスリープモードになり、もう一度押すとスリープモードを解除します。4 秒以上押しつづけると電源を強制的に切断します。

**10. システムパワーLED (3-pin PWR\_LED)**

このコネクタには PC ケースについているシステムパワーLED 端子を接続します。システムが稼動中は LED が点灯し、スリープモードの場合は点滅します。

**11. CPU ファン・予備ファンコネクタ (4 3-pin FAN connectors):**

NUVIA/NUVIA-GLS はファン用コネクタを 3 つ備えています。1 つは CPU 用です。残りの 2 つが予備です。いずれも 500mA (6W) 以下のファンに対応しています。ファンによってはケーブルやコネクタの形状が異なっているものがありますのでご注意ください。通常は赤いケーブルがプラス、黒いケーブルがマイナスです。接続するときには極性に注意してください。



NUVIA/ NUVIA-GLS FAN Connector



## 警告

- CPU とオンボードヒートシンク周辺の空気が十分に流れないと CPU またはマザーボードがオーバーヒートする場合があります。コネクタを接続する向きを間違えるとマザーボードまたは CPU の故障の原因となります。ファンコネクタはジャンパではありませんので、決してジャンパキャップをかぶせないでください。

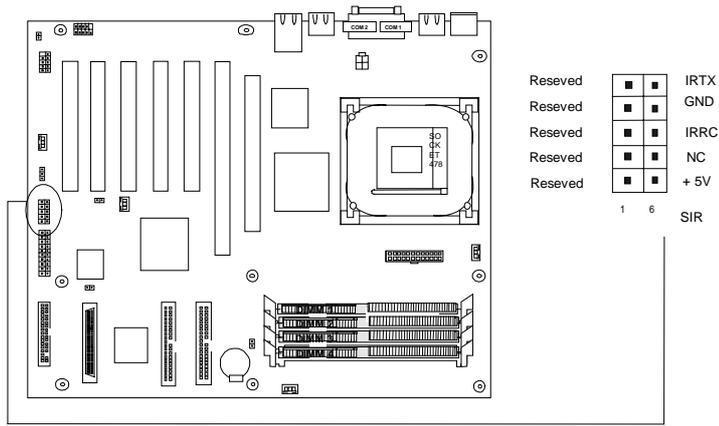


## メモ

- 3 ピンあるうちの “Rotation” ピンはファンの回転数を監視するための信号用に設計されています。
- CPU fan に接続したファンの回転数は BIOS 上で監視することができます。

### 12. IrDA 準拠赤外線モジュールコネクタ(10-pin IR connector )

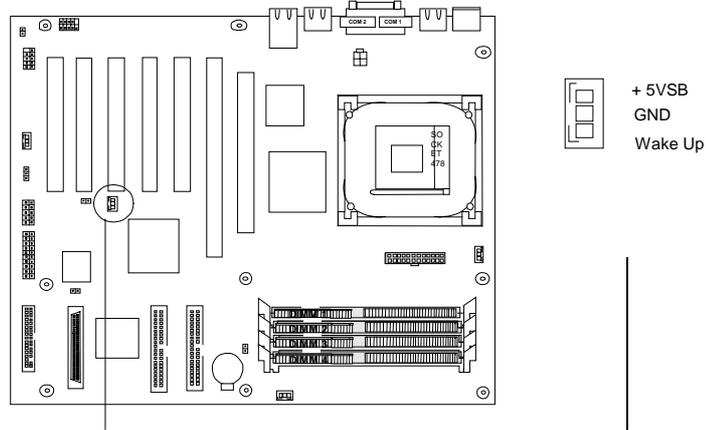
このコネクタには赤外線通信モジュールを接続します。この機能を利用するには PC ケースの隙間が開いた部分に赤外線通信モジュールを取り付けてください。SIR デバイスを使用する場合はピン 1～ピン 5 の位置に合わせて接続してください。



NUVIA/ NUVIA-GLS IrDA Connector

### 13. Wake-On-LAN ヘッダ (3-pin WOL)

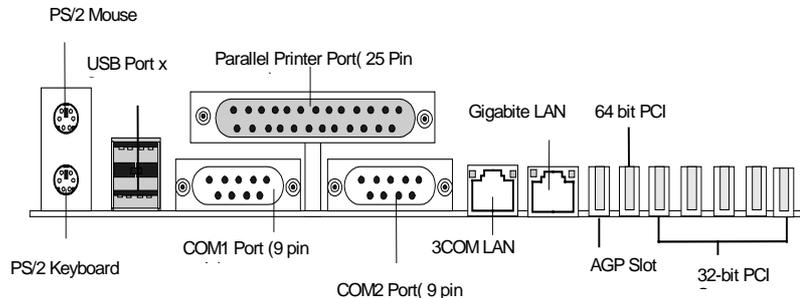
このコネクタと LAN カードをケーブルでつなぎます。LAN カードから Wakeup パケットまたは信号を受け取るとシステムが起動します。



NUVIA/ NUVIA-GLS Wake On LAN Header

## 重要

- Wake-On-LAN の機能を利用するには、少なくとも 720mA +5VSB に対応した ATX 電源ユニットが必要です。



ハードウェア  
の設定

### NUVIA/NUVIA-GLS I/O Connectors

図 4-2

項目 15. ~ 20. は上図 4-2 を参照してください。

#### 14. PS/2 マウスコネクタ(6-pin Female)

このコネクタに PS/2 マウスを接続すると、システムはマウスに IRQ12 を割り当てます。PS/2 マウスを使用しない場合は拡張カードのために IRQ12 を割り当てます。

#### 15. PS/2 キーボードコネクタ (6-pin Female)

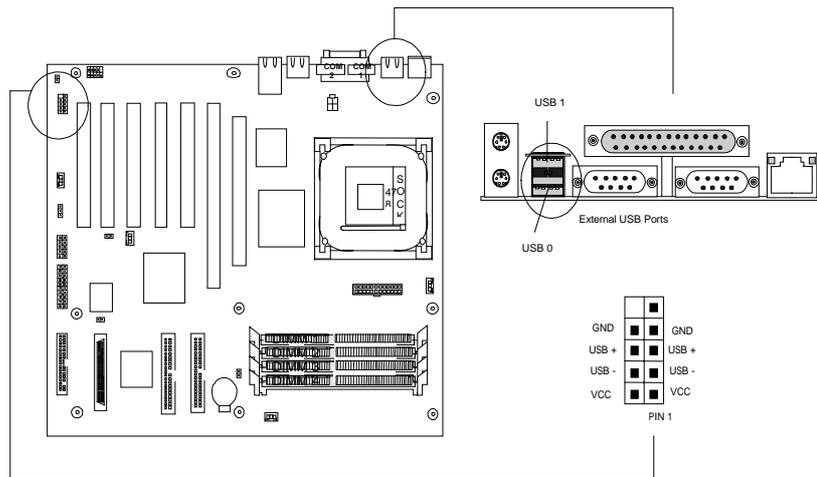
このコネクタには PS/2 キーボードを接続します。AT キーボードを使う場合には AT PS/2 変換コネクタが必要です。

#### 16. USB(Universal Serial BUS) ポート/ヘッダ (4-pin Female)

外付け USB 機器用のポートです。極力 USB ハブ等を介さず直に接続してください。ヘッダには市販の USB ブラケットを接続できます。

#### 17. パラレルプリンタコネクタ(25-pin Female)

ここにプリンタを接続すると BIOS 上で IRQ を選択することができます。



NUVIA/ NUVIA-GLS USB Connector

**18. オンボード LAN コネクタ(オプション)**

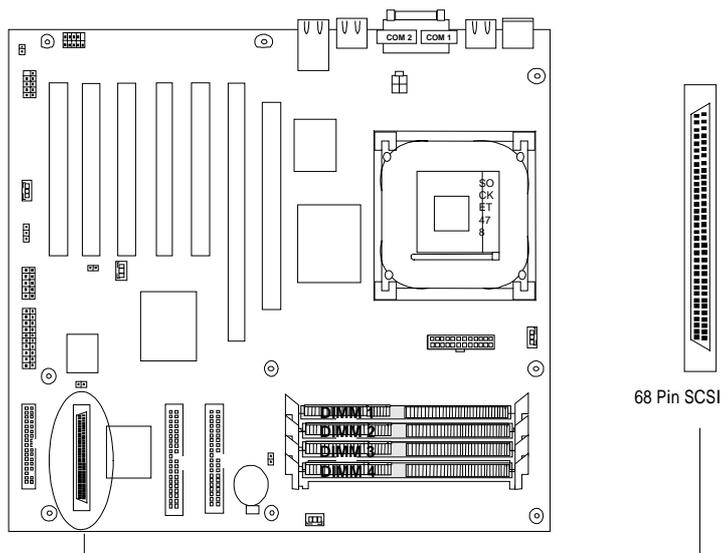
NUVIA/ NUVIA-GLS には 3COM 3C920 イーサネットコントローラ、NUVIA-GLS には Broadcom BCM5701 ギガビットイーサネットコントローラを搭載します。RJ45 コネクタは 10BASE-T と 100BASE-TX のどちらにも対応しています。詳細は“Onboard SCSI/LAN User Guide”を参照してください。

**19. シリアルポート COM1/2 コネクタ(9-pin Male)**

このコネクタにはポインティングデバイス等のシリアル機器を接続します。第 2 章 BIOS セットアップをご覧ください。

**20. オンボード SCSI コネクタ (オプション)**

NUVIA-GLS には SCSI コネクタを搭載します。詳細は“Onboard SCSI/LAN User Guide”を参照してください。



68 Pin SCSI

NUVIA-GLS SCSI Controller

ハードウェア  
の設定

---

---

ステップ 5.

## 拡張カードの取り付け



### 警告

- 拡張カード、メモリ、ハードディスク等のマザーボードへの取り付け・取り外しを行なう場合は、必ず先に電源を切ってください。通電したままの状態で行なうとマザーボードや接続機器が故障する場合があります。

#### 1. 拡張カードの取り付け手順

- 1.1 拡張カードの取り扱い説明書を読み、必要に応じてソフトウェアの設定やジャンパの設定等を行なってください。
- 1.2 PC ケースに付いているブラケットプレートのうち、拡張カードを取り付ける位置にあるものを外してください。外したブラケットプレートは保管しておいてください。
- 1.3 拡張カードのコネクタをスロットにしっかりと差し込んでください。
- 1.4 ブラケットプレートを固定していたネジを使って拡張カードを固定してください。
- 1.5 ステップ 6 の作業を行えば完了です。必要に応じて BIOS メニューで IRQ や DMA の設定を行なってください。

#### 2. PCI 拡張カードへの IRQ 割り当て

拡張カードが要求する IRQ のある場合はそれを割り当て、要求がなければシステムが自動で割り当てます。もし拡張カード上に割り込み (interrupt) に関するジャンパがあれば INTA にセットしてください。

---

---

## ステップ6.

### 電源投入

ハードウェア  
の設定

1. 外付け機器を含め全ての電源が切れていることを確認してください。スイッチに“○”“ - ”マークがついている場合は“○”マークが押し込まれた状態であることを確認してください。
2. ジャンパの設定やコネクタの接続が完了したら PC ケースのカバーを閉じてください。
3. PC 本体の電源ユニットにコンセントケーブルを接続してください。
4. 電源コンセントはアースするか、漏電保護プラグに挿してください。
5. 以下の順に電源を投入してください。
  - ディスプレー
  - 外付け SCSI 機器(チェーン上の終端機器が先)
  - PC 本体

PC 本体の電源を入れる前に電源ユニットのスイッチが ON(“ - ”マークが押し込まれた状態)になっていることを確認してください。

6. PC の電源を入れると前面パネルの LED が点灯します。ディスプレイがグリーンモードやスタンバイ機能に対応している場合は本体 LED の次にディスプレイの LED が点灯します。システムが起動するとまずパワーオンセルフテスト(POST)を行ないます(搭載メモリサイズのカウント等)。画面上にはテスト結果等いくつかの情報を表示します。電源投入後 30 秒以内に何も表示しない場合は POST に失敗しています。その場合はジャンパの位置やコネクタが緩んでいないか向きは正しいかを確認してください。問題が解決しない場合はお買い上げの販売店にご相談ください。PC の設置場所が寒冷地であったり、タコ足配線していると POST に失敗する場合があります。

- 
- 
7. パワーオンセルフテスト(post)中に<Delete>キーを押すと BIOS 設定メニューが現れます。次章「**BIOS セットアップ**」をご覧ください。



## メモ

- **電源の切断について**  
本体の電源を切断するときは、先に OS をシャットダウンしてください。

---

## 第2章

# BIOS セットアップ

この章ではROM BIOSに組み込まれたAward™ BIOS セットプログラムについて説明します。このプログラムを使うことでシステムの基本設定を変更することができます。マザーボード上の電池により変更後の内容は電源を切断しても消えません。

NUVIA/ NUVIA-GLS には業界標準 BIOS である Award™ BIOS のカスタマイズ版を収録したROM (Read Only Memory)を搭載しています。BIOS はハードディスクやシリアル/パラレルポートといった最も低レベルな入出力を制御します。

この Award™ BIOS は、パスワードによる保護機能を追加し、チップセットの性能をより向上させるためのチューニングができるようカスタマイズしたものです。



---

---

## ➤ **BIOS**セットアップの開始

Award™ BIOS は PC の電源投入直後に起動します。BIOS は CMOS からシステム情報を読み込み、システムのチェックと BIOS の設定を開始します。システム全体の設定完了後、BIOS はディスク装置からオペレーティングシステムを見つけ、制御をオペレーティングシステムに引き渡します。BIOS が制御している間であれば、セットアッププログラムを呼び出す方法が 2 つあります。

1. パワーオンセルフテスト(POST)中、画面下方に以下のメッセージが現れたら<Del>キーを押す。

**Press DEL to enter SETUP.**

2. PC の電源投入直後に素早く<Del>キーを押す。

<Del>キーの押下が間に合わずセットアッププログラムが起動しなかった場合は、PC 本体のリセットキーを押してください。システムが再起動します。また、<Ctrl> <Alt>キーを押しながら<Delete>キーを押しても再起動します。キーをタイミングよく押さないとシステムはうまく起動せず、以下のようなエラーメッセージが現れます。システムの起動を続行するなら<F1>キーを、セットアッププログラムを起動するなら<Del>キーを押してください。

**PRESS F1 TO CONTINUE, DEL TO ENTER SETUP**

## ➤ **セットアップ・キーの使い方**

<矢印>キーで項目を移動し、<Enter>キーで選択肢一覧を表示し、<Esc>キーでメニューを終わらせます。次頁にキーとその機能を記します。

キー	機能
上矢印(↑)キー	上の項目へ移動します
下矢印(↓)キー	下の項目へ移動します
左矢印(←)キー	左のメニューへ移動します
右矢印(→)キー	右のメニューへ移動します
<Esc>キー	サブメニュー : 前のメニューへ戻ります メニューバー : 変更を保存せずに終了します
<Enter>キー	選択肢一覧を表示します サブメニューのある項目ではサブメニューを開きます
<PgUp>キー	数値を増加させます
<PgDn>キー	数値を減少させます
<+>キー	数値を増加させます
<->キー	数値を減少させます
<F1>キー	キー操作の“ General Help ”を表示します “ General Help ”を消すには<ESC>キーまたは<F1>キーを押します
<F5>キー	そのページで前回保存した設定に戻します
<F6>キー	そのページを安全に起動できる既定値に設定します
<F7>キー	そのページの最適値に設定します
<F10>キー	変更内容を保存してセットアッププログラムを終了します

表1 キーの凡例

**メニューバーの移動方法**

< > < > キーで移動してください。

**サブメニューの表示方法**

サブメニューのある項目には“>”マークがついています。そこで<Enter>キーを押すとサブメニューを表示します。

---

---

## ➤ 問題が生じた場合

CMOS の変更内容によってはシステムが起動しなくなることがあります。そのような場合に備え Award™ BIOS は CMOS の設定をすべて初期値に戻すことができます。また、ジャンパで現在の CMOS 情報を消去することもできます。(ページ 1-2「ジャンパのセット」を参照してください)

変更するのは内容をよく理解している項目だけにしてください。また、チップセット項目の設定はなるべく変更しないでください。標準の設定は最高のパフォーマンスと安定性を提供するために Award™ と RIOWORKS™ が慎重に選んだものです。チップセット項目の変更は性能の低下とシステム障害を引き起こす原因となります。

## セクション 1

# 各項目の説明

Award™ BIOS CMOS セットアッププログラムを起動すると画面上にセットアップ項目が現れます。各メニューはそれぞれサブメニュー項目及びセットアップ項目で構成しています。< >キーでメニューを選択し< >キーでメニュー内の項目を移動します。サブメニュー項目で<Enter>キーを押すとサブメニューが現れ、セットアップ項目で<Enter>キーを押すと選択肢一覧が現れます。



使えるキーの一覧を画面下部に表示しています。画面右側にはカーソルのある項目についての簡単な説明を表示します。

BIOS  
セットアップ

## ➤ 項目のセットアップ

メニューは以下のカテゴリに分かれています。

### Main

システムクロック、ハードディスク、ビデオカード、エラーの取り扱いといったシステムの基本的な設定を行ないます。詳細はセクション 2 をご覧ください。

### Advanced

ここでは先進の機能を設定できます。このメニューは 5 つのオプションで構成しています。

<b>Advanced BIOS Features</b>	システムのブートアップ順、キーボード操作、シャドウ等の設定ができます。詳細はセクション 3-1 をご覧ください。
<b>Advanced Chipset Features</b>	システムの基礎となるチップセットが持つ機能について設定できます。詳細はセクション 3-2 をご覧ください。
<b>Integrated Peripherals</b>	入出力デバイスの設定ができます。詳細はセクション 3-3 をご覧ください。
<b>Power Management Setup</b>	周辺機器の電源管理について設定できます。詳細はセクション 3-4 をご覧ください。
<b>PnP/PCI Configurations</b>	PCI やプラグアンドプレイデバイスについて設定できます。詳細はセクション 3-5 をご覧ください。

<b>Defaults</b>	BIOS 設定を工場出荷時の「最適」な初期値に戻すことができます。あるいはトラブルが少なく「安定」する既定値にすることもできます。詳細はセクション 4 をご覧ください。
<b>Security</b>	システムセキュリティのためにパスワードを設定することができます。詳細はセクション 5 をご覧ください。
<b>PC Health</b>	CPU 温度、CPU ファンの回転数、供給電圧等を確認できます。詳細はセクション 6 をご覧ください。
<b>Clock</b>	CPU のクロックや内部倍率を変更できます。詳細はセクション 7 をご覧ください。
<b>Exit</b>	CMOS データの変更を保存できます。詳細はセクション 8 をご覧ください。

<b>Save &amp; Exit Setup</b>	設定変更後の内容を CMOS に保存してから CMOS セットアッププログラムを終了します。
<b>Exit Without Saving</b>	CMOS に変更内容を保存せずに CMOS セットアッププログラムを終了します。

## セクション2

# Main メニュー

<Main>メニューでは、システムクロック、ビデオの種類、エラーの取り扱いといったシステムの基本的な設定ができます。

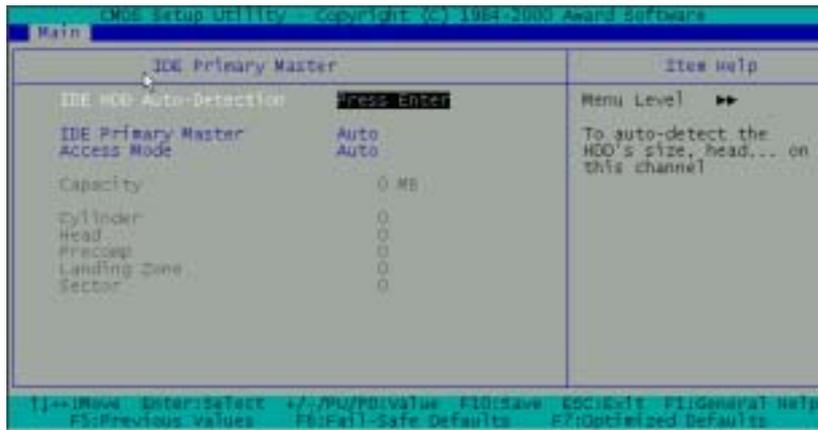
BIOS  
セットアップ



項目	選択肢	説明
Date	月 日 年	システム日付をセットしてください。曜日は自動的に変更されます。
Time	時 : 分 : 秒	システム時刻をセットしてください。
IDE Primary/Secondary Master/Slave		この項目にカーソルを合わせて<Enter>キーを押すとサブメニューが現れます。次頁を参照してください。

<b>Drive A/B</b>	None 360K, 5.25 in 720K, 3.5 in 1.2M, 3.5 in 1.44M, 3.5 in 2.88, 3.5 in	システムに接続しているフロッピーディスクドライブの種類を選択してください。
<b>Floppy 3 Mode Support</b>	Disabled (デフォルト) Drive A Drive B Both	3モードフロッピーを接続しているドライブを指定してください。
<b>Video</b>	EGA/VGA (デフォルト) CGA 40 CGA 80 Mono	ビデオの種類を選んでください。(通常は EGA/VGA)
<b>Halt On</b>	All Errors (全てのI/O) No Errors (停止させない) All, But Keyboard (キーボード以外) (デフォルト) All, But diskette (フロッピー以外) All, But Disk/Key (フロッピーとキーボード以外)	パワーオンセルフテスト (POST)のどこでエラーが発生したらシステムを停止させるのかを選択してください。
<b>Base Memory/ Extended Memory/ Total Memory</b>		情報の表示のみ

BIOS  
セットアップ



項目	選択肢	説明
IDE HDD Auto-Detection		この項目を選択して<Enter>キーを押すと、IDE コネクタに接続しているハードディスクの型番や容量を自動的に検知します。
IDE Primary/Secondary Master/Slave	Auto (デフォルト) Manual None	<p>“Manual”を選択した場合は、type,cylinder,Precomp, head, landing zone を全て設定してください。</p> <p>“Auto”を選択した場合は、Access mode 以外の項目が全て“0”になります。</p> <p>“None”は、ドライブ類を接続していない IDE チャンネルにセットしてください。</p>

<b>Access Mode</b>	CHS LBA Large Auto (デフォルト)	“CHS”モードはサイズが 528 MB 以下のハードディスクを使用する場合に選択してください。“LBA”モードは 528 MB 超のハードディスクで Logical Block Addressing (LBA) 機能が使えます。 “Large”モードは 528MB 超で LBA 機能の使えないハードディスクのときに選択してください。MS-DOS の場合もこれを選択してください。“Normal”は SCO UNIX のときに選択してください。
<b>Capacity</b>		ハードディスクの容量
<b>Cylinder</b>	最小=0 最大=65535	ハードディスクのシリンダ数
<b>Head</b>	最小=0 最大=255	ハードディスクの読み書きヘッド数
<b>Precomp</b>	最小=0 最大=65535	ハードディスクのプレコンベンション(書き込みを開始する位置)
<b>Landing Zone</b>	最小=0 最大=65535	ハードディスクのランディングゾーン(ディスクの回転を止めるときにヘッドを退避させる領域)
<b>Sector</b>	最小=0 最大=255	ハードディスクの 1トラック当たりのセクタ数



## メモ

- これらの項目は新しいハードウェアを追加した場合や予期しない原因で CMOS の設定が変わってしまった場合にだけ再設定してください。システムが正しく動作している間は設定を変更する必要はありません。

## Advanced メニュー

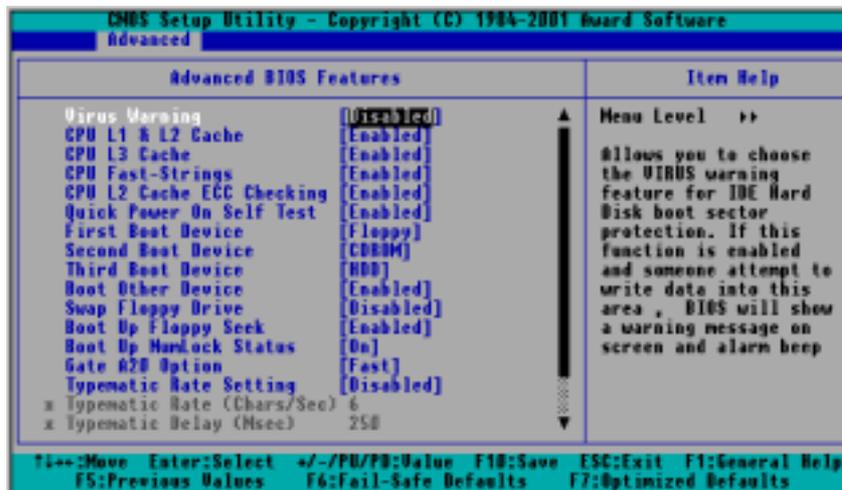
“Advanced”メニューには以下の5つのサブメニューがあります。

- Advanced BIOS Features**
- Advanced Chipset Features**
- Integrated Peripherals**
- Power Management Setup**
- PnP/ PCI Configurations**

BIOS  
セットアップ

### ➤ 3-1: Advanced BIOS Features

このセクションでは、システムの起動順序、キーボード操作、シャドウやセキュリティといった基本操作の設定を変更できます。



**Virus Warning**

IDE ハードディスクのブートセクタをウィルスから保護する機能があります。"Enabled"を選択した場合、ブートセクタにデータを書き込もうとすると警告メッセージを表示してビープ音を鳴らします。

Enabled	ブートセクタやパーティションテーブルにアクセスすると警告メッセージを表示します。
Disabled ( <i>デフォルト</i> )	ブートセクタやパーティションテーブルにアクセスしても警告メッセージを表示しません。

**CPU L1 & L2 Cache**

CPUのL1 キャッシュとL2キャッシュを有効/無効にできます。  
 選択肢：Enabled(*デフォルト*) , Disabled

**CPU L3 Cache**

CPUのL3キャッシュを有効/無効にできます。  
 無効(Disabled)を選択するとシステムの処理速度が低下するため、トラブル時以外は有効(Enabled)にしておいてください。  
 選択肢：Enabled(*デフォルト*) , Disabled

**CPU Fast-Strings**

この項目を有効(Enabled)にすると CPU の処理速度が向上します。  
 選択肢：Enabled(*デフォルト*) , Disabled

**CPU L2 Cache ECC Checking**

CPUのL2キャッシュでECC(エラーチェック・エラー訂正)機能を有効/無効にできます。  
 The choices: Enabled(*Default*) , Disabled  
 選択肢：Enabled(*デフォルト*) , Disabled

**Quick Power On Self Test**

"Enabled"を選択するとクイックパワーオンセルフテスト(POST)を高速化します。  
 選択肢：Enabled(*デフォルト*) , Disabled

**First/Second/  
Third Boot  
Device**

OSを収録したデバイスを検索する順序を指定します。  
先に見つけたデバイスで OS が起動しなければ、次の  
デバイスを探しに行きます。

**1<sup>st</sup> Boot device の選択肢** : Floppy(デフォルト), LS120,  
HDD, SCSI, CDROM, ZIP100, LAN, Disabled.

**2<sup>nd</sup> Boot device の選択肢** : Floppy, LS120, HDD,  
SCSI, CDROM(デフォルト), ZIP100, LAN, Disabled

**3<sup>rd</sup> Boot device の選択肢** : Floppy, LS120, HDD (デフ  
ォルト), SCSI, CDROM, ZIP100, LAN, Disabled

**Boot Other  
Device**

“Enabled”を選択すると上記の **First/Second/Third  
Boot Device** に OS が見つからなかった場合、他の  
ドライブを探します。

選択肢 : Enabled(デフォルト), Disabled

**Swap Floppy  
Drive**

“Enabled”を選択するとフロッピードライブを 2 台接  
続している場合ドライブ名の A:と B:を交換します。

選択肢 : Enabled, Disabled (デフォルト)

**Boot Up  
Floppy Seek**

“Enabled”を選択するとシステム起動中にフロッピー  
ドライブ A:が動作するかどうかをチェックします。

選択肢 : Disabled, Enabled (デフォルト)

**Boot Up  
NumLock  
Status**

“On”を選択するとシステム起動時に Num Lock をオン  
にします。

選択肢 : On (デフォルト), Off

**Gate A20  
Option**

チップセットまたはキーボードコントローラが Gate A20  
を制御する場合はこの項目を設定してください。

Normal	キーボードコントローラ中のピン が Gate A20 を制御します
Fast (デフォルト)	チップセットに Gate A20 を制御 させます。

**Typematic  
Rating  
Setting**

“Enabled”を選択すると以下の” **Typematic Rate (Chars/Sec)**”と” **Typematic Delay (Msec)**”が変更できます。  
 選択肢：Enabled, Disabled (**デフォルト**)

**Typematic  
Rate  
(Chars/Sec)**

キーを押し続けたときの1秒間に繰り返し入力する文字数を指定します。  
 選択肢：6(**デフォルト**), 8, 10, 12, 15, 20, 24, 30.

**Typematic  
Delay (Msec)**

キーを押し続けたときに何ミリ秒後から繰り返し入力を開始するかを指定します。  
 選択肢：250(**デフォルト**), 500, 750, 1000.

**Security  
Option**

パスワードの入力をいつ要求するのかを指定します。

System	正しいパスワード (Supervisor password)を入力しないとシステムは起動せず、BIOS の設定変更もできません。
Setup ( <b>デフォルト</b> )	正しいパスワード (supervisor password 又は user password)を入力しないと BIOS の設定変更ができません。システムの起動はできません。

**メモ:** パスワードを無効にするには、BIOS メニューバーの” **PASSWORD SETTING**” から”**Set Supervisor Password**”または”**Set User Password**”を選び”**Enter Password:**”と表示されたら何も入力せずに<Enter>キーを押してください。

---

---

**OS Select For  
DRAM >64MB**

64MB を超える RAM を使用して OS/2 を稼働させる場合に "OS 2" を選択してください。

選択肢 : Non-OS 2 (デフォルト), OS2

---

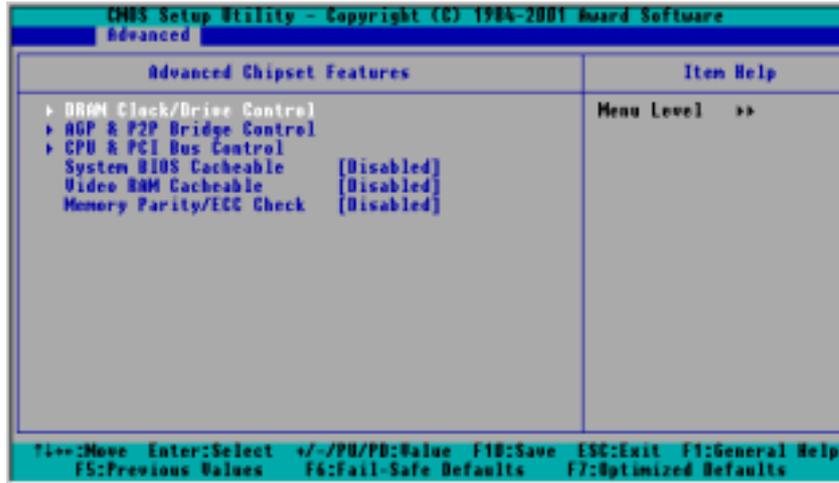
**Video BIOS  
Shadow**

ビデオ BIOS の保存領域を ROM から RAM に変更します。RAM に再配置することでアクセススピードが早くなりパフォーマンスが向上します。

選択肢 : Enabled (デフォルト), Disabled

## ➤ 3-2: Advanced Chipset Features

ここではチップセットの機能に関する設定をすることができます。チップセットはバススピードや SDRAM・外部キャッシュといったリソースへのアクセスを管理します。ここの初期値はチップセットのパフォーマンスを引き出すために最適な設定をしてありますので特に変更する必要はありません。誤った設定にするとシステムが起動しなくなる場合があります。その場合は“Optimized Defaults” または“Fail-Safe Defaults”(セクション 4 を参照してください)で CMOS に初期値をロードしてください。



BIOS  
セットアップ

## ➤ DRAM Clock/Drive Control

**Current FSB  
Frequency**

搭載している CPU の FSB(Front Side Bus)を表示します。

**Current DRAM  
Frequency**

搭載している DRAM のクロック数を表示します。

**DRAM Clock**

DRAM クロックを固定するのか、SPD(Serial Presence Detect / メモリジュール上の EEPROM に記録されている情報を読み込む)にするのかを選びます。  
選択肢：Host CLK, HCLK+33M, By SPD(デフォルト)

クロックを固定する場合は下表を参考にして選択してください。

選択肢	Host CLK	HCLK+33M
533Mhz FSB CPU の場合	PC133	不可
400Mhz FSB CPU の場合	PC100	PC133

**DRAM Timing**

SDRAM からデータを取り込むタイミングを制御します。通常は変更しないでください。"By SPD"を選択した場合は下記の 2 項目の値を変更できます。  
選択肢：Manual, By SPD(デフォルト)

**DRAM Cycle Length**

SDRAM の CL(CAS Latency)クロックサイクルを指定します。通常は変更しないでください。  
選択肢：2,2.5(デフォルト)

**Bank Interleave**

システムのパフォーマンスや信頼性に大きく影響しますので、変更する際は注意してください。  
選択肢：2 Bank, 4 Bank ,Disabled(デフォルト)

**➤ AGP & P2P Bridge Control****AGP Aperture Size**

システムメモリのうち AGP(Accelerated Graphics Port)のために使うサイズを指定します。  
選択肢：4 M, 8 M, 16 M, 32 M, 64 M(デフォルト), 128 M, 256M

<b>AGP Mode</b>	お使いの AGP カードに応じて変更してください。 選択肢：4X(デフォルト), 2X, 1X
<b>AGP Driving Control</b>	AUTO 設定で何らかのエラーが生じる際に設定を変更してください。“Manual”を選択すると以下の項目を変更できます。 選択肢：Auto(デフォルト), Manual
<b>AGP Driving Value</b>	16 進数を入力することで、AGP 出力バッファドライバの管理、制御を行います。 Min = 0000 / Max = 00FF
<b>AGP Fast Write</b>	“Enabled”を選択すると AGP 4x カードをお使いの場合に高速書き込みができます。 選択肢：Disabled(デフォルト), Enabled
<b>AGP Master 1 WS Write</b>	“Enabled”を選択すると AGP はテクスチャデータをメインメモリに直接書き込みます。 選択肢：Enabled, Disabled(デフォルト)
<b>AGP Master 1 WS Read</b>	“Enabled”を選択すると AGP はテクスチャデータをメインメモリから直接読み込みます。 選択肢：Enabled, Disabled(デフォルト)

### ➤ CPU & PCI Bus Control

<b>CPU to PCI Write Buffer</b>	“Enabled”を選択すると CPU はデータを一旦バッファに退避させ、バッファから PCI バスに書き込みます。CPU と PCI バスのデータ転送速度の違いを補うためです。“Disabled”にすると CPU は次の書き込みをするために他の書き込みが終わるまで待っていないければなりません。 選択肢：Enabled (デフォルト), Disabled
--------------------------------	---

**PCI Master 0 WS  
Write**

”Enabled”を選択すると待ち時間なしで PCI バスへの書き込みを行います。

選択肢：Enabled (*デフォルト*), Disabled

**PCI Delay  
Transaction**

PCI から ISA へのデータ転送速度を上げるために ISA 信号を受け取ることができます。

選択肢：Enabled , Disabled(*デフォルト*)

**System BIOS  
Cacheable**

”Enabled”を選択するとシステムメモリの F0000h 領域はキャッシュメモリが読み書きできるようになります。F0000h 領域の内容は常に BIOS ROM からシステム RAM へコピーされることになるので処理速度が向上します。

選択肢：Enabled, Disabled(*デフォルト*)

**Video RAM  
Cacheable**

ビデオ RAM はキャッシュメモリが読み書きできるようになります。

選択肢：Enabled, Disabled(*デフォルト*)

**VPX Delay  
Transaction  
(NUVIA-GLS 用)**

“Enabled”を選択すると 64bitPCI スロット”VIA AGP to P64 Bridge(*VPX*)”のバスマスター遅延処理を行います。

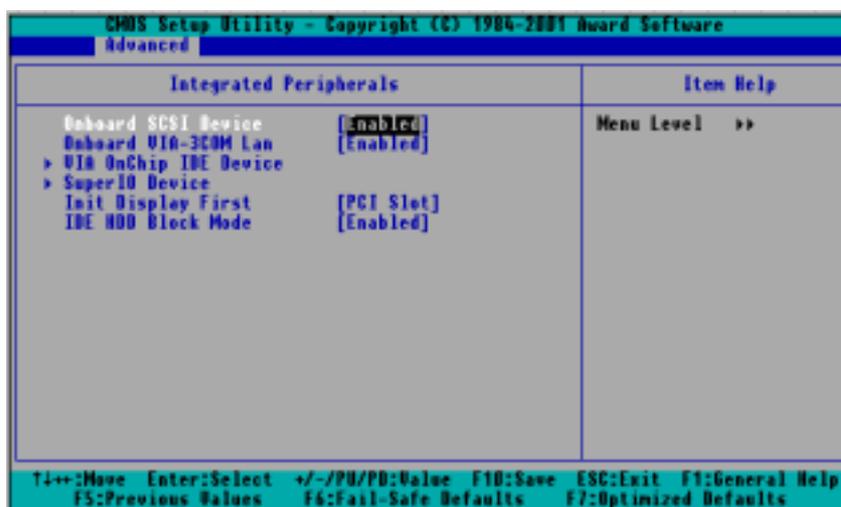
選択肢：Enabled, Disabled(*デフォルト*)

**Memory  
Parity/ECC  
Check**

”Enabled”を選択するとシステム起動時のメモリテストにパリティチェックを追加できます。パリティ機能のあるメモリをお使いの場合にだけ”Enabled”を選んでください。

選択肢：Enabled, Disabled(*デフォルト*)

### ➤ 3-3: Integrated Peripherals



BIOS  
セットアップ

#### Onboard SCSI Device (NUVIA-GLS 用)

”Enabled”を選択するとオンボード SCSI が使用できます。

選択肢：Enabled(デフォルト), Disabled

#### Onboard GB Lan Device (NUVIA-GLS 用)

”Enabled”を選択するとオンボード・ギガビット LAN が使用できます。

選択肢：Enabled(デフォルト), Disabled

#### Onboard VIA-3COM Lan

”Enabled”を選択するとオンボード・3Com LAN が使用できます。

選択肢：Enabled(デフォルト), Disabled

---

---

## ➤ VIA OnChip IDE Device

---

### OnChip IDE Channel10/11

周辺機器コントローラはUDMA100に対応したIDEインターフェースを2チャンネル持っています。2つのIDEチャンネルは別々に有効/無効を切り替えることができます。

選択肢：Enabled(デフォルト), Disabled

---

### IDE Prefetch Mode

“Enabled”を選択すると、システムがデータの処理中に次のデータを前もって読み込んでおきます。システムがより安定します。

選択肢：Enabled(デフォルト), Disabled

---

### Primary Master/Slave PIO; Secondary Master/Slave PIO

IDE インタフェースに接続したそれぞれの機器にPIO (Programmed Input/ Output)モードを設定できます。0から4まであるモードは大きいほどパフォーマンスが上がります。“Auto”を選ぶとその機器に最適なモードを自動的に選択します。

選択肢：Auto (デフォルト), Mode 0, Mode 1, Mode 2, Mode 3, Mode 4

---

### Primary Master/Slave UDMA; Secondary Master/slave

ハードディスクとOSがUltra DMAに対応している場合、Ultra DMA 33/66/100が使えます。通常は“Auto”を選択してください。PIOモードにしたい場合は“Disabled”を選んでください。

選択肢：Auto (デフォルト), Disabled.

## ➤ Super IO Device

---

### Power ON Function

パワーオン機能を割り当てるソースを指定します。

選択肢：Button Only(デフォルト), Any Key, Keyboard 98, Password, Hot Key,

<b>KB Power ON Password</b>	<p>“Power ON Function”で“Password”を選んだ場合はここでパスワードを入力してください。          選択肢：Enter(デフォルト)</p>
<b>Hot Key Power ON</b>	<p>“Power ON Function”で“Hot Key”を選んだ場合はここでホットキーを定義してください。          選択肢：Ctrl-F1, Ctrl-F2..., Ctrl-F12</p>
<b>Onboard FDC Controller</b>	<p>システムにフロッピーディスクコントローラをインストールしてフロッピードライブを使用する場合には“Enabled”を指定してください。フロッピードライブを使用しない場合は“Disabled”を選んでください。          選択肢：Enabled (デフォルト), Disabled</p>
<b>Onboard Serial Port 1/Port 2</b>	<p>シリアルポートにアドレスと IRQ を割り当てます。          選択肢：3F8/IRQ4(port 1 のデフォルト), 2E8/IRQ3, 3E8/IRQ4, 2F8/IRQ3(port 2 のデフォルト), Disabled, Auto</p>
<b>UART Mode Select</b>	<p>赤外線モジュールを使用できます。COM2 ポートと赤外線モジュールコネクタが二つ目の UART (Universal Asynchronous Receiver / Transmitter) を共用するため、COM2 ポートを使用中は赤外線モジュールが機能しません。          選択肢：Normal(デフォルト), IrDA, ASKIR</p>
<b>RxD, TxD Active</b>	<p>RxD と TxD の動作を決めることができます。          選択肢：&lt;Hi, Lo&gt;(デフォルト), &lt;Hi,Hi&gt;, &lt;Lo,Hi&gt;, &lt;Lo,Lo&gt;.</p>
<b>IR Transmission Delay</b>	<p>SIR が RX モードから TX モードに変更された場合に設定してください。          選択肢：Enabled (デフォルト), Disabled</p>

**UR2 Duplex Mode**

通信方法を設定できます。

<b>Full</b>	データを同時に双方向へ伝送します。送ったデータは受信し終わるまで画面上には現れません。"Full"(全二重モード)は"Half"よりも高速です。
<b>Half (デフォルト)</b>	データは常に一方通行になります。送ったデータは即座に画面上に現れます。"Half"(半二重モード)はデバイスを簡単に動かします。全二重モードに対応していないデバイスはこちらを選んで下さい。

**Use IR Pins**

システムが赤外線を使わない場合は<RxD2, TxD2>を選んでください。赤外線を使う場合は IR-Rx2Dx2を選んでください。

選択肢： : <RxD2, TxD2>, IR-Rx2Dx2(デフォルト)

**Onboard Parallel Port**

パラレルポートにアドレスを割り当てます。そのアドレスが既に使われていないことを確認してください。

選択肢： 3BC/IRQ7, 378/IRQ7 (デフォルト), 278/IRQ5, Disabled

**Parallel Port Mode**

パラレルポートの操作モードを選んでください。"SPP"は標準のパラレルポートとして使えます。"EPP"は中速の双方向パラレルポートとして使えます。"ECP"はデータ転送速度が最も速い双方向パラレルポートとして使えます。"ECP+EPP"は2ウェイモードとして標準の転送速度で使えます。

選択肢： SPP(デフォルト), ECP, ECP+EPP, EPP

---



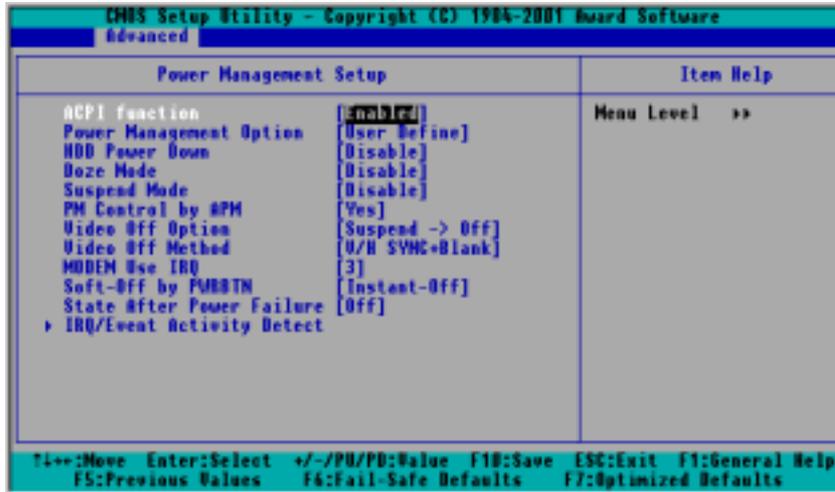
---

<b>EPP Mode Select</b>	<p>“Onboard Parallel Mode” で “EPP” (Enhanced Parallel Port)を選択した場合にEPPのバージョンを指定してください。          選択肢：EPP1.7(デフォルト),EPP1.9</p>
<b>ECP Mode Use DMA</b>	<p>“Onboard Parallel Mode”で“ECP”又は “ECP+EPP”を選択した場合に DMA を割り当てます。          選択肢：3 (デフォルト),1</p>
<b>Init Display First</b>	<p>PCI スロットと AGP のどちらを先に動作させるかを指定してください。          選択肢：PCI Slot (デフォルト), AGP</p>
<b>IDE HDD Block Mode</b>	<p>IDE ハードディスクがブロックモードに対応している場合は“Enabled”を選択してください。最適な読み書きブロック番号を自動的に検知します。          選択肢：Enabled (デフォルト), Disabled</p>

### ➤ 3-4: Power Management Setup

接続した装置毎に省電力の設定を行なうことができます。

BIOS  
セットアップ



#### ACPI Function

ACPI (Advanced Configuration and Power Management)に対応した OS の場合、ACPI 対応機器を検索します。

選択肢：Enabled(デフォルト), Disabled

#### Power Management Option

次の2つの省電力モードを設定できます。

- Doze Mode
- Suspend Mode

選択肢は以下の3種類あります。

User Define (デフォルト)	それぞれの項目を任意に設定できます。設定範囲は1分から1時間です。
------------------------	-----------------------------------

Min. Saving	最小の電源管理設定になります。 <b>Doze Mode = 1 Hour</b> <b>Suspend Mode = 1 Hour</b>
Max. Saving	最大の電源管理設定になります。 <b>Doze Mode = 1 Min,</b> <b>Suspend Mode = 1 Min</b>

**HDD Power Down**

“Disabled”以外を選択した場合、指定した時間内にいずれかの装置を動かさないとハードディスクはパワーダウンします。  
選択肢：1 Min- 15Min, Disabled(デフォルト)

**Doze Mode**

“Power Management Option”を“User Define”にした場合にドーズモード(CPU のみ動作速度を落とす)へ移行するまでの時間を指定してください。  
選択肢：Disable, 1Min, 2Min, 4Min, 6Min, 8Min, 10Min, 20Min, 30Min, 40Min, 1Hour

**Suspend Mode**

“Power Management Option”を“User Define”にした場合にサスペンドモードへ移行するまでの時間を指定してください。  
選択肢：Disable, 1Min, 2Min, 4Min, 6Min, 8Min, 10Min, 20Min, 30Min, 40Min, 1Hour

**PM Control by APM**

APM(Advanced Power Management)対応機器は“Max. Saving”モードで最も省電力効果が現れます。同時に CPU の内部クロックも停止します。APM 対応機器を接続している場合は“Yes” (デフォルト)を選択してください。“Max. Saving”モードが無効になっていると“No”がセットされます。

**Video Off Option**

VGA ビデオカードの省電力機能を設定します。

All mode -> Off	すべての省電力モードでディスプレイを非表示にします。
Suspend -> Off (デフォルト)	サスペンドモードになるとディスプレイを非表示にします。
Always ON	システムがサスペンドモードやスタンバイモードになってもディスプレイは ON のままです。

**Video Off Method**

ディスプレイを非表示にする方法を設定します。

V/H SYNC+Blank (デフォルト)	水平 / 垂直同期ポートを切断して、ビデオパッファにブランクを出力します。
Blank Screen	ビデオパッファにブランクを出力します。
DPMS Support	ディスプレイが電源管理信号 (Display Power Management Signaling) に対応している場合はこちらを選択してください。

**MODEM Use IRQ**

モデム用に IRQ を予約します。  
 選択肢 : 3(デフォルト), 4, 5, 7, 9, 10, 11, NA(IRQ なし)

**Soft-Off by PWRBTN**

システムがハングアップした場合、電源スイッチを 4 秒以上押しと Soft-Off することができます。  
 選択肢 : Delay 4 Sec, Instant-Off (デフォルト)

**State After Power Failure**

“On” を選ぶとマザーボードが通電状態になった瞬間にシステムが自動的に起動します。  
 選択肢 : On , Off(デフォルト)

---

---

## ➤ **IRQ/Event Activity Detect**

<b>VGA</b>	“ON”を選択した場合、VGA からシステムを復帰させます。 選択肢：ON, OFF (デフォルト)
<b>LPT&amp;COM</b>	選択したポートに接続した(または選択したポートと同じIRQ)機器の動作でシステムを復帰させます。 選択肢：LPT/COM(デフォルト), NONE,LPT,COM
<b>HDD&amp;FDD</b>	ハードディスクドライブまたはフロッピーディスクドライブの動作でシステムを復帰させます。 選択肢：ON (デフォルト), OFF
<b>PCI Master</b>	P C I 拡張カードからシステムを復帰させます。 選択肢：OFF (デフォルト), ON
<b>Power On By PCI Card</b>	PCI カードからの PME 信号によりシステムを復帰させます。 選択肢：Disabled(デフォルト), Enabled
<b>Wake Up on LAN</b>	LAN カードまたはモデムカードから信号を受け取るとシステムを復帰させます。 選択肢：Disabled(デフォルト), Enabled
<b>RTC Alarm Resume</b>	サスペンドモードからタイマー起動できます。RTC (real-time clock)アラームに起動日時を設定してください。 選択肢：Disabled(デフォルト), Enabled

## ➤ IRQ Activity Monitoring

### Primary INTR

On (デフォルト)を選択した場合に以下の各項目を変更できます。

以下の一覧にある IRQ へ接続した機器からシステムを復帰させます。COMポートとLPTポートは以下のIRQリストから除外することができます。入出力装置がOSへメッセージを要求するとその返事がIRQを起動させる信号となります。OSは返信メッセージの準備ができると割り込みを行い当該入出力装置が動作します。“Disabled”以外をセットした入出力装置を動かす度に、システムが省電力モードへ入るためのカウントダウンをやりなおします。

IRQ3 (COM 2) : Enabled (デフォルト)

IRQ4 (COM 1) : Enabled (デフォルト)

IRQ5 (LPT 2) : Enabled (デフォルト)

IRQ6 (Floppy Disk) : Enabled (デフォルト)

IRQ7 (LPT 1) : Enabled (デフォルト)

IRQ8 (RTC Alarm) : Disabled (デフォルト)

IRQ9 (IRQ2 Redir) : Disabled (デフォルト)

IRQ10 (Reserved)) : Disabled (デフォルト)

IRQ11 (Reserved) : Disabled (デフォルト)

IRQ12 ( PS / 2 Mouse ) : Enabled (デフォルト)

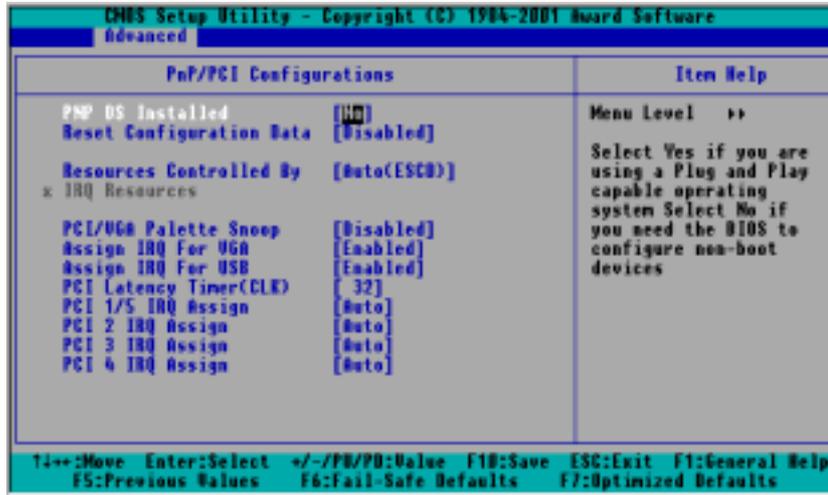
IRQ13 (Coprocessor) : Enabled (デフォルト)

IRQ14 (Hard Disk) : Enabled (デフォルト)

IRQ15 (Reserved) : Disabled (デフォルト)

### ➤ 3-5 PnP/ PCI Configurations

このセクションでは PCI バスの設定について説明します。PCI(Personal Computer Interconnect)は CPU に近い速度で入出力装置とデータ交換を行なうシステムです。十分な知識がない限りこのセクションでの設定変更は行わないことを推奨します。



BIOS  
セットアップ

#### PNP OS Installed

プラグ&プレイに対応した OS をインストールするか否かを指定してください。

選択肢：Yes, No (デフォルト)

#### Reset Configuration Data

通常は"Disabled"のままにしておいてください。新しいハードウェアをインストールした結果システムが起動しなくなった場合に"Enabled"を選択すると ESCD (Extended System Configuration Data)をリセットします。変更後の BIOS を保存すると自動的に"Disabled"へ戻ります。

選択肢：Enabled, Disabled (デフォルト)

---

## Resource Controlled By

Award のプラグ & プレイ BIOS にはプラグ & プレイ対応ハードウェアの設定を自動で行なう機能があります。但し、Windows®98/Me/2000 のようにプラグ & プレイに対応した OS に限り有効です。

選択肢：Auto (ESCD) (デフォルト), Manual

---

### >IRQ Resources

IRQ  
3/4/9/10/11/12/13/  
15

リソースを手動で制御する場合それぞれの I R Q に下記のタイプを割り当てられます。

予約は PC/AT バス規格に従った割り込み要求です。(例えば IRQ4 はシリアルポート 1 用)

選択肢：PCI Device(デフォルト), Reserved

---

### PCI/VGA Palette Snoop

“Enabled”を選択すると、CPU は異なるバスに取り付けた複数の VGA のパレットレジスタからのデータを扱えるようになります。

選択肢：Enabled, Disabled(デフォルト)

---

### Assign IRQ For VGA

VGA に IRQ を割り当てます。

選択肢：Enabled (デフォルト), Disabled

---

### Assign IRQ For USB

USB に IRQ を割り当てます。

選択肢：Enabled (デフォルト), Disabled

---

### PCI Latency Timer(CLK)

PCI のレスポンスタイムを 0 ~ 255 の範囲で指定できます。

初期値：32

---

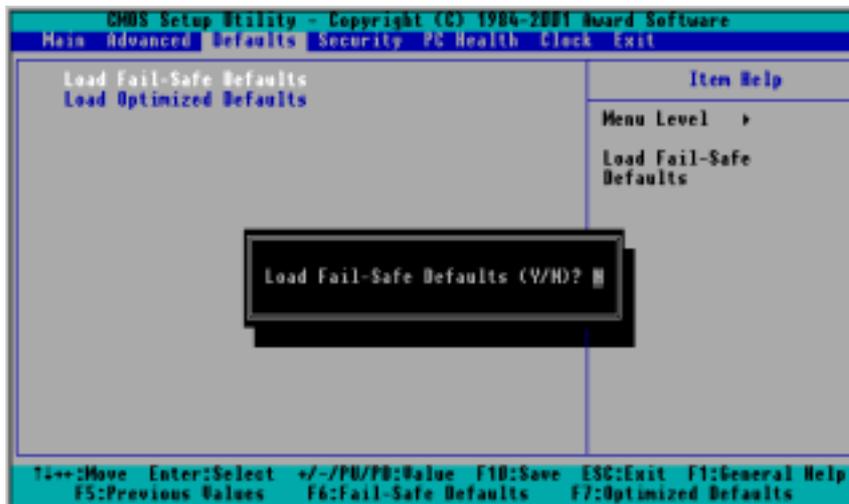
### PCI 1/5,2,3,4 IRQ Assign

各 PCI スロットに割り当てる IRQ を任意に変更できます。

選択肢：Auto(デフォルト), 3, 4, 5, 7, 9, 10, 11

## Defaults メニュー

メニューバーから“Defaults”を選ぶと以下の画面が現れ、2つのオプションが選べます。



BIOS  
セットアップ

### Load Fail-Safe Defaults

<Enter>キーを押すと以下のような確認メッセージボックスが現れます。

**Load Fail-Safe Defaults (Y/N)? N**

ここで‘Y’を入力するとシステムのパフォーマンスが最も安定する設定になります。

---

---

**Load  
Optimized  
Defaults**

<Enter>キーを押すと以下のような確認メッセージボックスが現れます。

**Load Optimized Defaults (Y/N)? N**

ここで'Y'を入力すると工場出荷時と同じく最適なパフォーマンスの設定になります。

 **メモ**

新しいシステムを構築後は、まず最初に”Load Optimized Defaults“を行うことを推奨いたします。

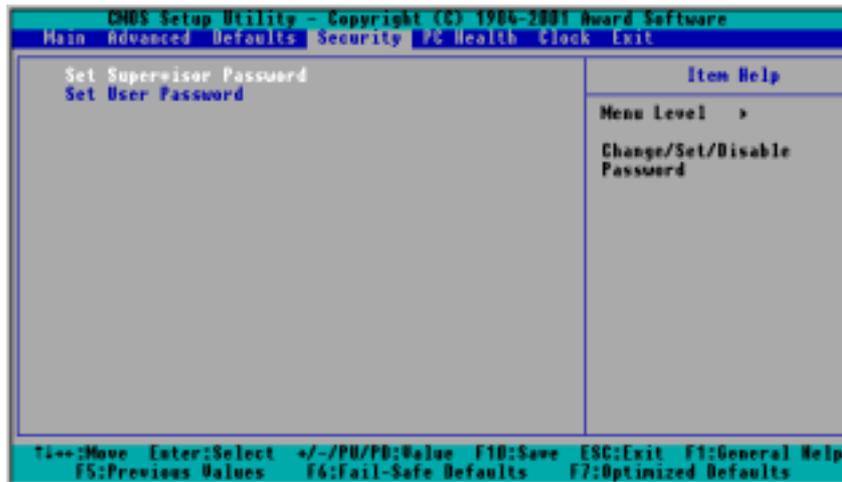
---

## セクション5

---

# Security メニュー

スーパーバイザ・パスワード及びユーザ・パスワードを設定できます。また、ブートセクタをウィルスから保護する設定もできます。



BIOS  
セットアップ

---

### Set Supervisor Password

CMOS 設定の参照と変更ができるパスワードを入力します(セクション3“Security Option”を参照してください)。ここで<Enter>キーを押すとパスワード入力メニューが現れます。

---

**Ser User  
Password**

CMOS 設定の参照はでき、変更はできないパスワードを入力します (セクション 3 “**Security Option**” を参照してください)。ここで <Enter> キーを押すとパスワード入力メニューが現れます。

---

**Enter  
Password**

8 文字以内のパスワードを入力して <Enter> キーを押してください。既に登録してあるパスワードは CMOS から消去します。パスワードの確認を求められたら同じパスワードを再度入力して <Enter> キーを押してください。<Enter> キーの代わりに <Esc> キーを押すとパスワードを保存しません。

---

**Password  
Disable**

パスワードの消去をするのか訊かれますので <Enter> キーを押してください。消去していいのか再び訊かれます。そこで <Enter> キーを押すと消去が確定し、次回からパスワードなしで CMOS の設定変更ができるようになります。

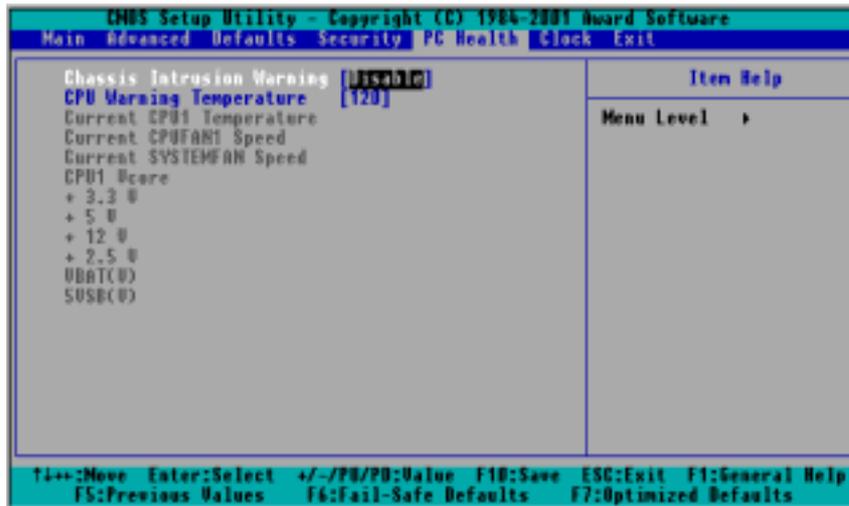
パスワードが有効になると、次回から CMOS の設定変更のたびにパスワードを要求されます。パスワードは権限のない人が設定を変更してしまうことを防ぐために必要です。

システムを再起動するたびにパスワードの入力を求められるようになります。権限のない第三者にコンピュータを不正に使われないための措置です。

正しくパスワードが登録できたらセクション 3-1 “**Advanced BIOS Features**” の “**Security option**” の設定に従いパスワードの入力を求められるようになります。“System” を選択していればシステム起動時と CMOS の設定変更時に、“Setup” を選択していれば CMOS の設定変更時にパスワードを求められます。

## PC Health メニュー

NUVIA/ NUVIA-GLS にはハードウェアモニタチップを搭載しています。BIOS は自動的に CPU 温度、CPU ファン、CPU 電圧、マザーボードへの供給電圧といったシステムの健康状態を検知します。



BIOS  
セットアップ

### Chassis Intrusion Warning

“Enabled”を選択した場合、PC ケースを開けたままシステムを起動すると POST 中の画面に警告メッセージが表示されます。

但し、PC ケースに Intru Chassis ケーブがついていて、それがマザーボード上の Intru Chassis ヘッダ(USB2 ヘッダの隣にある 2pin ヘッダ)に接続している場合に限りです。

選択肢 : Enable, Disable (デフォルト)

<b>CPU Warning Temperature</b>	CPU の上限温度を指定してください。CPU の温度が指定した上限温度を超えるとピープ音が鳴り続けます。
<b>Current CPU1 Temperature</b>	CPU の温度を表示します。
<b>Current CPU FAN1 Speed</b>	CPU FAN の回転数を表示します。
<b>Current SYSTEMFAN Speed</b>	SYSTEM FAN 1 の回転数を表示します。
<b>CPU 1 Vcore</b>	CPU のコア電圧を表示します。
<b>+3.3V/ +5V/+12V/+2.5V/ AT(V)/5VSB(V)</b>	コンポーネントの電圧を表示します。

## セクション7

# Clock メニュー

このセクションでは CPU の外部クロックや DIMM/PCI クロック自動検知 の設定ができます。



BIOS  
セットアップ

### Auto Detect DIMM/PCI Clk

DIMM/PCI クロックの自動検知機能を有効にするか無効にするかを設定します。  
選択肢： Enabled (デフォルト), Disabled

### Spread Spectrum

クロック周波数のスペクトラム拡散ができます。接続機器の動作に悪影響を及ぼすので通常は"Disabled"にしておいてください。この項目は EMI テストのためにあります。  
選択肢： off (デフォルト), +/-0.25%, -0.5%, +/-0.5%, +/-0.38%

---

---

---

### CPU Host/PCI Clock

オーバークロック設定する場合、FSB(Front Side Bus)を指定してください。ただし、オーバークロックによるトラブルは保証外となりますので、極力デフォルトのままお使いください。

選択肢 : Default(デフォルト), 100/33MHz, 105/35MHz, 114/38MHz, 117/39MHz, 120/40MHz

---

### CPU Ratio

CPU の内部倍率を指定してください。

選択肢 : X15(デフォルト), X16, X17, X18, X19, X20, X21, X22, X23

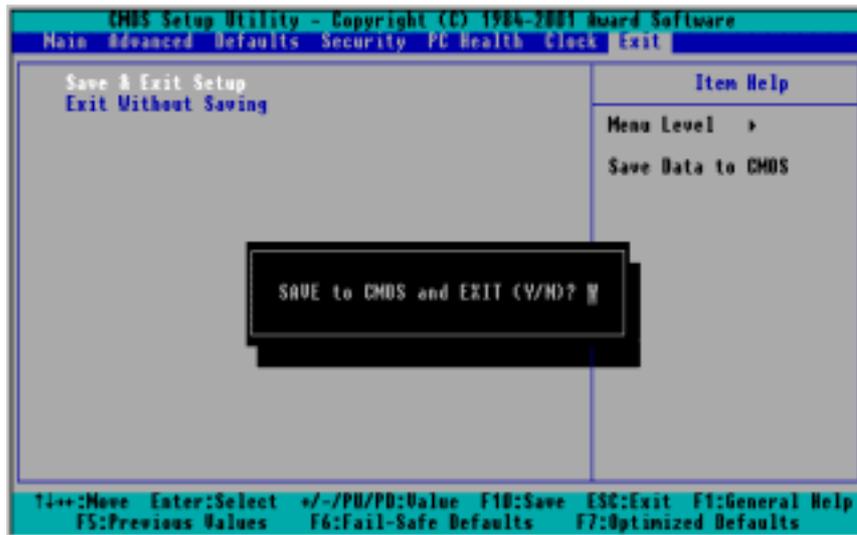


## メモ

- CPU の稼働クロックは「FSB × 倍率」となります。システムの安定稼働のためには「CPU Host /PCI Clock」と「CPU Ratio」を正しくセットしてください。

## Exit メニュー

BIOS 設定で変更後の状態を保存できます。メニューバーから"Exit"を選ぶと下図のメニューが現れます。



BIOS  
セットアップ

### Save & Exit Setup

<Enter>キーを押すと確認のため以下のメッセージが現れます。

#### Save to CMOS and EXIT (Y/N)? Y

ここで"Y"を押すと変更後の設定を CMOS に記憶し、システムが再起動します。BIOS は CMOS の保存情報に基づいてシステムを起動します。

---

---

**Exit Without  
Saving**

<Enter>キーを押すと確認のため以下のメッセージが現れます。

**Quit without saving (Y/N)? Y**

変更内容をCMOSに保存せずにセットアッププログラムを終了し、システムは再起動します。

BIOS  
セットアップ

---

---

## 第3章

# BIOS フラッシュ・ユーティリティ

この章では Award BIOS フラッシュ・ユーティリティを使った BIOS のアップデート方法を説明します。ここでは例としてアップデート用の新しい BIOS ファイル名を *newbios.bin* と表記しますが、実際のファイル名は異なります。適宜実際のファイル名に読み替えてください。アップデート前の古い BIOS ファイル名は *oldbios.bin* と表記しますので、こちらも適宜実際のファイル名に読み替えてください。

Awdflash.exe コマンドは大文字・小文字を区別しません。

### ➤ 事前準備

アップデートを行なうには以下の2つのファイルが必要です。

- 新しい BIOS ファイル(例 : *newbios.bin*)
- アップデート・ユーティリティ (*awdflash.exe*)

2枚のフロッピーディスクを用意してください。

- 1枚目のフロッピーで起動ディスクを作ってください。
- 2枚目のフロッピーに上記の2ファイルをコピーしてください。

これで準備は終わりです。



### 警告

BIOS のアップデートは絶対に中断しないでください。書き込みに失敗すると BIOS のデータは消失し、システムが起動しなくなります。万が一 BIOS の書き込みに失敗した場合は、新しいフラッシュ EPROM と交換しなければなりません(有償)。

BIOS フラッシュ  
ユーティリティ

## ➤ プログラムの実行

1. 1枚目に作成した起動ディスクからシステムを起動してください。このとき CONFIG.SYS や AUTOEXEC.BAT を読み込まないようにしてください。アップデートユーティリティはプロテクトモードでは正常に動作しません。

### メモ

EMM386 や QEMM を読み込むとアップデートは正しく行なえず、エラーメッセージが表示されます。

2. DOS コマンドラインが現れたら 2 枚目に作成したフロッピーを入れ **awdf`flash`** と入力して<Enter>キーを押してください。以下の画面が現れます。

<b>FLASH MEMORY WRITER v7.08</b> (C) Award Software 1999 All Rights Reserved	
For I430HX-2A59F000	DATE: 05/18/99
Flash Type -	
File Name to Program:	<input type="text"/>
<b>Error Message:</b>	

BIOSフラッシュ  
ユーティリティ

3. "File Name to Program" 項目が反転します。
4. 反転部分に新しい BIOS ファイル名(例 : *newbios.bin*)を入力し<Enter>キーを押してください。
5. 画面下部の "Error Message:" 欄に次のメッセージが現れます。  
**Do You Want to Save Bios (Y/N)**
6. 古い BIOS を保存したくない場合は "N" を入力してステップ 8 へ進んでください。保存する場合は "Y" を入力してください。

7. "File Name to Save"欄には旧BIOSを保存するためのファイル名を入力して(例: *oldbios.bin*)<Enter>キーを押してください。  
旧BIOSはデフォルトのディレクトリに保存されます。(この例の場合はAドライブ)もう一度<Enter>キーを押してください。

8. 画面下部の"Error Message:"欄に次のメッセージが現れます。

**Are you sure to program (y/n)**

次のどちらかを選んでください。

No	Yes
BIOSのアップデートをやめたいときは"N"を選んでください。	BIOSのアップデートを行ないたいときは"Y"を選んでください。
BIOSのアップデートをやめたいときは"N"を選んでください。	アップデートが完了すると以下のメッセージが現れます。
	<b>Programming Flash Memory - 7FFFF OK</b>         
	システムを再起動してください。再起動すればアップデートは成功です。

BIOSフラッシュユーティリティ

### ➤ コマンドラインパラメータ

DOSのコマンドラインでアップデート・ユーティリティにパラメータを付けて実行することができます。

---

---

## メモ

この説明は Award flash アップデート・ユーティリティ /バージョン 7.08 を前提としています。パラメータの一覧を表示するにはコマンドラインに **awdf flash /?** と入力して<Enter>キーを押してください。

```
Awdflash 7.08 (C)Award Software 1999 All Rights Reserved
Usage: AWDFLASH [FileName1] [FileName2] [/<SW>[/<SW>...]]
  FileName1 : BIOS を書き換えるための新しいバイナリファイル名
  FileName2 : 現在の BIOS のバックアップ用バイナリファイル名
<スイッチ一覧>
  ? : スイッチの一覧を表示する
  py : BIOS 書き換えを実行する          pn: BIOS を書き換えない
  sy : 現在の BIOS を保存する           sn: BIOS を保存しない
  sb : ブートブロックの書き換えをスキップする  sd: DMI データを保存する
  cp : 書換後 PnP(ESCD)データをクリアする
  cd : 書換後 DMI データをクリアする
  cc : 書換後 CMOS データをクリアする
  R  : 書換後システムを再起動する
Tiny : メモリの占有領域を減らす
  E  : 書換後 DOS に戻る
  F  : 元の BIOS のフラッシュルーチンを使って書き換える
  LD : 書換後最初の再起動時には CMOS チェックサムと No System エラーを
      無視する

例 : AWDFLASH nuvia100.bin /py/sn/cd/cp
```

BIOS フラッシュ  
ユーティリティ

### ➤ 保存/更新

/P プログラム (BIOS 更新); スイッチ = **y** または **n**  
/S 旧 BIOS 保存; スイッチ = **y** または **n**

---

例 1

現 BIOS を“oldbios.bin”という名前で保存し、新 BIOS“newbios.bin”を書き込むには次のように入力してください。

**Awdflash newbios.bin /py oldbios.bin /sy**

例 2

現 BIOS を保存せず、新 BIOS“newbios.bin”を書き込むには次のように入力してください。

**Awdflash newbios.bin /sn**

実行後以下のメッセージが出たら Y を押してください。

**Are you sure to program (Y/N)**

例 3

現 BIOS の保存のみを行う場合は次のように入力してください。

**Awdflash /pn oldbios.bin**

実行後以下のメッセージが出たら Y を押してください。

**Do you want to Save BIOS (Y/N)**

BIOS フラッシュ  
ユーティリティ

## ➤ データの初期化

Award flash ユーティリティ(バージョン 7.08)は上記の他に 3 つのコマンドライン・パラメータを持っています。

/CC CMOS をクリアする

/CP PnP データ(ESCD)をクリアする

/CD DMI データをクリアする

---

---

このページは空白です。

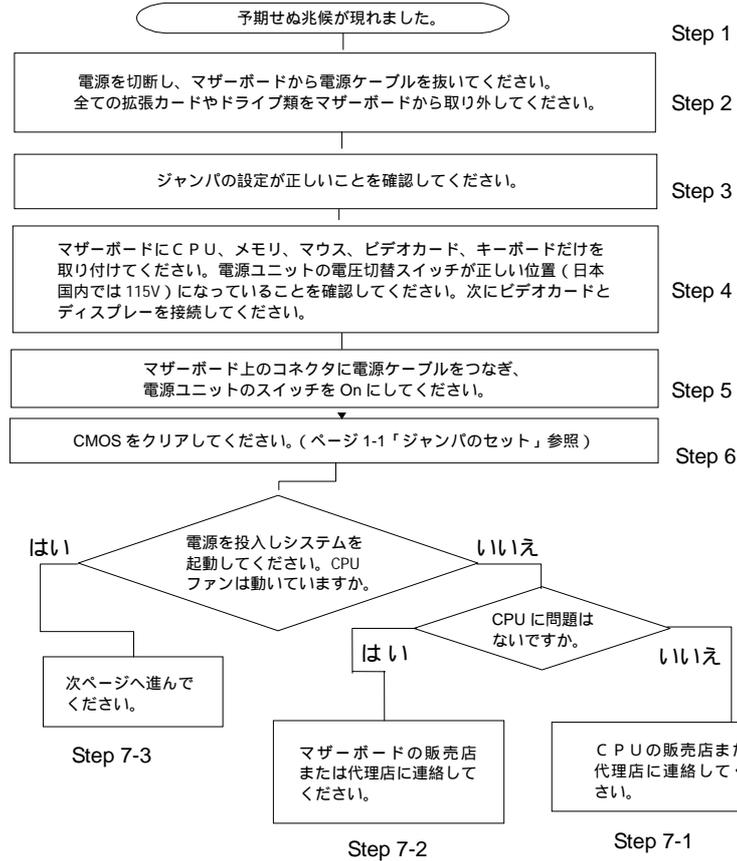
BIOS フラッシュ  
ユーティリティ

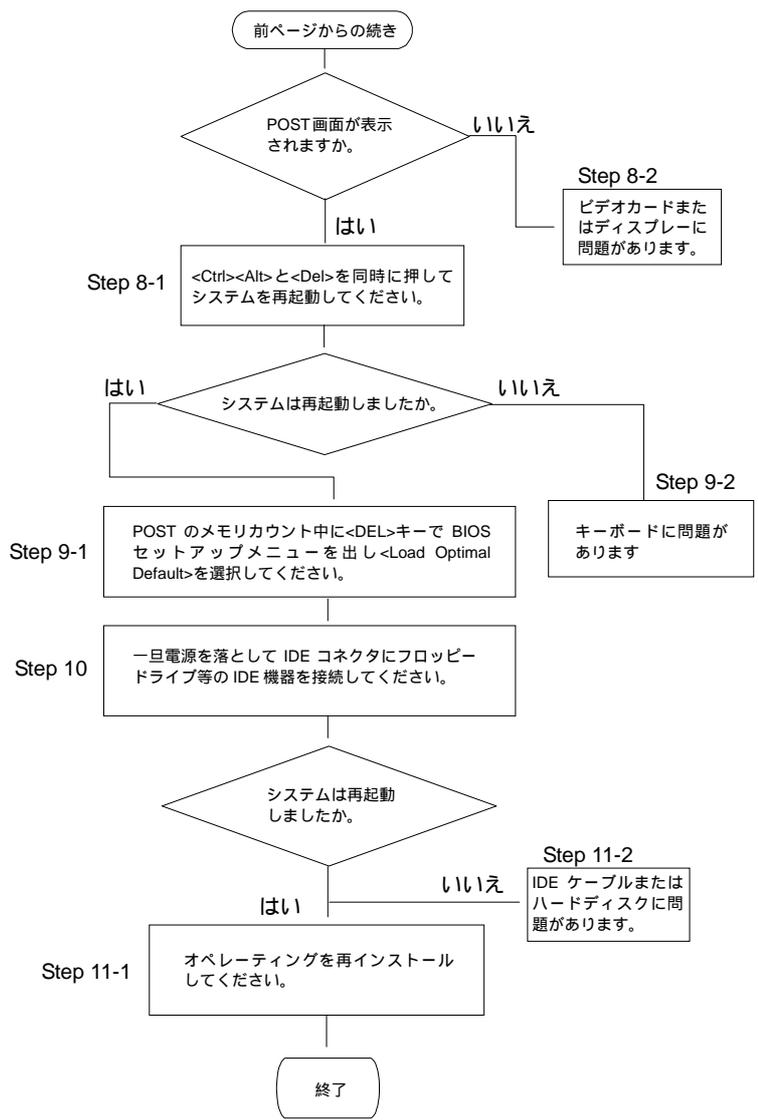
## 付録 A

# トラブルシューティング

何か問題が生じたときは以下の流れに従ってチェックしてください。

### トラブルシューティングの手順







## 警告

NUVIA に拡張カードやその他ハードウェアを取り付けるときは、あらかじめ電源ケーブルを抜いておいてください。

## 2. トラブルチェックリスト

症状	チェックポイント
電力が供給されない (ファンが回転しない)	<ol style="list-style-type: none"><li>1. マザーボードと PC ケースの間で回路やケーブルがショートしていませんか。</li><li>2. ジャンパは標準の位置にありますか。</li><li>3. 電源スイッチ背面の電圧切替スイッチ (115V/230V)は 1 1 5 V 側になっていますか。 (日本国内の場合)</li><li>4. CPU はしっかりソケットに取り付けられていますか。</li><li>5. CPU ファンの電源ケーブルは正しい位置に接続していますか。</li><li>6. 電源は正しく ON と OFF にできますか。</li><li>7. マザーボード上の電池が切れていませんか。</li></ol>
電力は供給されている (ファンは回転する) しかしディスプレイ には何も映らない	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 全ての拡張カードを取り外してください。ビデオカード、CPU、メモリは付けたままにしてください。</li><li>2. ジャンパは標準の位置にありますか。</li><li>3. CLRTC ジャンパで CMOS をクリアしてください。</li><li>4. ビデオカードとディスプレイは正しく接続していますか。ビデオカードはしっかり挿さっていますか。</li><li>5. スピーカーで音を鳴らしてみてください。問題を特定できるかもしれません。</li></ol>

---

---

メモリエラー	<ol style="list-style-type: none"><li>1. DDR DIMM モジュールをメモリソケットにしっかり挿入していますか。</li><li>2. スピードの異なるメモリを混ぜて使っていませんか。</li><li>3. お使いのメモリはDDR2100またはDDR1600ですか。</li></ol>
--------	--

---

---

## 付録 B

# トラブル報告書

型番	シリアル番号			BIOS バージョン	
CPU					
DIMM 0	サイズ	MB	メモリ メーカー	チップ上記載の モデル番号	
DIMM 1	サイズ	MB	メモリ メーカー	チップ上記載の モデル番号	
DIMM 2	サイズ	MB	メモリ メーカー	チップ上記載の モデル番号	
DIMM 3	サイズ	MB	メモリ メーカー	チップ上記載の モデル番号	
AGP					
PCI-64	(NVIA-GLS のみ)				
PCI-1					
PCI-2					
PCI-3					
PCI-4					
PCI-5					
IDE-1	マスタ				
	スレーブ				
IDE-2	マスタ				
	スレーブ				

トラブルシューティング

